テスト対策

でるモン テスト対策本

国語 中3 光村

解答解説

1 世界はうつくしいと

教科書 見返し　光村 国語中3

学習した日　　月　日

時間25分　100点

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

世界はうつくしいと　長田弘

A
うつくしいものの話をしよう。
いつからだろう。ふと気がつくと、
うつくしいということばを、ためらわず
口にすることを、誰もしなくなった。
そうして①わたしたちの会話は貧しくなった。

B
うつくしいものをうつくしいと言おう。
風の匂いは②うつくしい。渓谷の
石を伝わってゆく流れはうつくしい。
午後の草に落ちている雲の影はうつくしい。
遠くの低い山並みの静けさはうつくしい。
きらめく川辺の光はうつくしい。
おおきな樹のある街の通りはうつくしいと。
行き交いの、なにげない挨拶はうつくしいと。
花々があって、奥行きのある路地はうつくしいと。
雨の日の、家々の屋根の色はうつくしいと。
太い枝を空いっぱいにひろげる
晩秋の古寺の、大銀杏はうつくしいと。
冬がくるまえの、曇り日の、
南天の、小さな朱い実はうつくしいと。
コムラサキの、実のむらさきはうつくしいと。
過ぎてゆく季節はうつくしいと。
さらりと老いてゆく人の姿はうつくしいと。
［　　］、③ニュースとよばれる日々の破片が、
わたしたちの歴史と言うようなものだろうか。
あざやかな毎日こそ、わたしたちの価値だ。
うつくしいものをうつくしいと言おう。
幼い④ネコとあそぶ一刻はうつくしいと。
シュロの枝を燃やして、灰にして、撒く。
何ひとつ永遠なんてなく、いつか
すべて塵にかえるのだから、世界はうつくしいと。

（教科書見返し／長田弘「世界はうつくしいと」）

(1) ⓐ・ⓑの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) 作者が――線①「わたしたちの会話は貧しくなった」というのはなぜか。その理由を「～から。」に続く形で詩の中から三十五字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

(3) よくでる ――線②「うつくしいと」のあとに省略されている言葉を詩の中から三字で書き抜きなさい。

(4) ［　　］に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア ましてイ まさに　ウ 一体　エ それゆえ

(5) ――線③「ニュースとよばれる日々の破片が、／わたしたちの歴史と言うようなものだろうか」という表現で、作者は何を言おうとしているか。「ニュース」「歴史」という言葉を使って、別の表現に言い換えなさい。

(6) よくでる 作者が――線A「うつくしいものの話をしよう」、B「うつくしいものをうつくしいと言おう」というのはなぜか。その理由について述べた次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から七字で書き抜きなさい。

作者は、（　　）がわたしたちの価値だと考えているから。

(7) よくでる この詩の型を表す言葉を次の中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 口語詩　イ 文語詩　ウ 定型詩　エ 自由詩

1 (1)(7)各5点、(2)完答、他各10点　(6)20点　(2)(5)

(1)	ⓐ あいさつ					
	ⓑ 猫					
(2)	初め	うつくしい				
	終わり	なくなった	から。			
(3)	言おう					
(4)	ウ					
(5)	⑴わたしたちの歴史は、日々のニュースとはちがうものである。					
(6)	あざやかな	毎日				
(7)	ア	エ				

(1) ――線①の理由はその前の二行に書かれている。

(2) ――線②をはじめ、「うつくしいと。」の表現が多く使われている。――線②の直前では、「うつくしいものをうつくしいと言おう。」とあり、この表現の「言おう」を省略したものであるとわかる。

(5) ニュースとよばれる日々の破片が……と言うようなものだろうか。という問いかけは、「そうではない。」という意味の反語表現になっている。「ニュース」が「わたしたちの歴史と言うようなものではない」という趣旨でまとめよう。

2 握手①

教科書 P.14～25　光村 国語中3

深まる学びへ

学習した日　　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

ルロイ修道士は大きな手を差し出してきた。その手を見て思わず顔をしかめたのは、光ケ丘天使園の子供たちの間でささやかれていた「天使の十戒」を頭に浮かべたせいである。（中略）この「天使の十戒」が、さらにわたしの記憶の底から、天使園に収容されたときの光景を引っ張り出した。

風呂敷包みを抱えて園長室に入っていったわたしを、ルロイ修道士は机越しに［A］で迎えて、

①「ただいまから、ここがあなたの家です。もう、なんの心配もいりませんよ。」

と言ってくれたが、彼の握力は万力よりも強く、しかも腕を勢いよく上下させるものだから、こっちの肘が机の上に立ててあった聖人伝にぶつかって、腕がしびれた。

だが、顔をしかめる必要はなかった。それは実にⓐオダやかな握手だった。ルロイ修道士は病人の手でも握るようにそっと握手をした。（中略）

「日本人は先生に対して、［B］ひどいことをしましたね。交換船の中止にしても国際法無視ですし、木づちで指をたたき潰すに至っては、もうなんて言っていいか。申し訳ありません。」

ルロイ修道士はナイフを皿の上に置いてから、②右の人さし指をぴんと立てた。指の先は天井を指してぶるぶる細かく震えている。また思い出した。ルロイ修道士は、「こら。」とか、「よく聞きなさい。」とか言う代わりに、右の人さし指をぴんと立てるのが癖だった。

③「総理大臣のようなことを言ってはいけませんよ。だいたい、日本人を代表してものを言ったりするのはⓑゴウマンです。［C］、日本人とかカナダ人とかアメリカ人といったようなものがあると信じてはなりません。一人一人の人間がいる、それだけのことですから。」

（教科書P.14～18／井上ひさし「握手」）

(1) ――線ⓐ・ⓑのカタカナを漢字に直しなさい。

(2) ［A］に入る言葉を文章中から二字で書き抜きなさい。

(3) よくでる ――線①の発言から読み取れるルロイ先生の人物像として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア いいかげんな人物　イ 配慮にかける人物
ウ 思いやりのある人物　エ 厳しい人物

(4) 「わたし」が過去の出来事を回想している部分を文章中から抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。（句点を含む）

(5) ［　　］B・Cに入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア なぜ　イ ずいぶん　ウ たとえ　エ どうせ　オ それに

(6) よくでる ――線②とあるが、指の動きが表しているものは何か。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 賛同　イ 注意　ウ 禁止　エ 反対

(7) ――線③とあるが、先生はどんなことを言おうとしているのか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

1 (1)各5点、(4)(7)20点、(4)完答、他各10点

(1)	ⓐ 穏					
	ⓑ 傲慢					
(2)	握手					
(3)	ウ					
(4)	初め	風呂敷包み				
	終わり	しびれた。				
(5)	B イ	C オ				
(6)	イ					
(7)	⑴日本人を代表してものを言うべきではないということ。					

(2) この文章は、ルロイ先生の「握手」にまつわるエピソードである。

(3) 天使園にやってきた「わたし」を温かい言葉で歓迎している。

(4) 天使園に収容されたときの光景を回想している部分を探す。

(5) Bには、後ろの「ひどいこと」を修飾する「ずいぶん」が入る。Cの後ろは、Cの前の部分に新しい内容を付け加えているので「それに」が入る。

(6) 「こら」「よく聞きなさい」と言う代わりに人さし指を立てて「注意」を表している。

(7) 「日本人は先生に対して、……ひどいことをしましたね」「申し訳ありません」という「わたし」の言葉に対するルロイ先生の言葉である。

3 深まる学びへ 握手②

教科書 P.14〜25　光村 国語中3

学習した日　　月　　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「おいしいですね、このオムレツは。」

ルロイ修道士も右の親指を立てた。わたしは、はてなと心の中で［A］をかしげた。おいしいと言うわりには、①ルロイ修道士に食欲がない。ラグビーのボールを押し潰したようなかっこうのプレーンオムレツは、空気を入れればそのままグラウンドに持ち出せそうである。ルロイ修道士はナイフとフォークを動かしているだけで、オムレツをちっとも口へ運んではいないのだ。

「それよりも、わたしはあなたをぶったりはしませんでしたか。あなたにひどい仕打ちをしませんでしたか、もし、していたなら、謝りたい。」

「一度だけ、ぶたれました。」

ルロイ修道士の、両手の人さし指をせわしく交差させ、打ちつけている姿が脳裏に浮かぶ。これは②危険信号だった。この指の動きでルロイ修道士は、「おまえは悪い子だ。」とどなっているのだ。そして次には、きっと平手打ちが飛ぶ。ルロイ修道士の平手打ちは痛かった。

「［B］ぶちましたか。」

ルロイ修道士は悲しそうな表情になって、ナプキンを折りタタむ。食事はもうおしまいなのだろうか。

「でも、わたしたちは、ぶたれてあたりまえの、ひどいことをしでかしたんです。高校二年のクリスマスだったと思いますが、無断で天使園を抜け出して東京へ行ってしまったのです。」

翌朝、上野へ着いた。有楽町や浅草で映画と実演を見て回り、夜行列車で仙台に帰った。そして待っていたのがルロイ修道士の平手打ちだった。

「あさっての朝、［C］戻ります。心配しないでください。⑤捜さないでください。」という書き置きを、園長室の壁に貼りつけておいたのだが。

「ルロイ先生は一月間、わたしたちに口をきいてくれませんでした。平手打ちよりこっちのほうが③こたえましたよ。」

（教科書P.18〜19／井上ひさし「握手」）

(1) ⓐ・ⓑの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ［A］に入る、体の一部を表す一字の漢字を答えなさい。

(3) よくでる ——線①「ルロイ修道士に食欲がない」ことがよくわかる一文を抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。（句点を含む）

(4) よくでる ——線②「危険信号」について、次の問いに答えなさい。

Ⅰ ルロイ修道士のどんな様子を指すか、文章中から書き抜きなさい。

Ⅱ なぜ危険なのかを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

（①一字）の動きで「おまえは悪い子だ。」とどなっており、次には（②四字）が飛んでくるから。

(5) ［B］・［C］に入る言葉をそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 必ず　イ つまり　ウ やはり　エ おおよそ　オ 全然

(6) ——線③と同じ意味で——が使われている文を次から選びなさい。

ア アンケートにこたえる。　イ 厳しい指導にこたえる。

ウ 出題にこたえる。　エ 父の言葉がこたえる。

1 (1)各5点、(4)Ⅰ20点、他各10点　(3)完答

(1)	(2)	(3) 初め	(3) 終わり	(4) Ⅰ	(4) Ⅱ ①	(4) Ⅱ ②	(5)	(6)
ⓐ 畳	首	ルロイ修道	ないのだ。	両手の人さし指をせわしく交差させ、打ちつけている姿	指	平手打ち	B ウ / C ア	エ

(2) 不審に思うという意味の慣用句である。

(3) オムレツを口に運んでおらず、食べていないことから、食欲がないことがわかる。

(4)Ⅰ ——線②の前に「これ」とある。「これ」が指すものは直前の一文にあり、そこから抜き出す。

Ⅱ ——線②の後ろに、その危険信号がなぜ危険なのかが書かれている。

4 深まる学びへ 握手③

教科書 P.14〜25　光村 国語中3

学習した日　　月　　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「仕事がうまくいかないときは、この言葉を思い出してください。『困難は分割せよ。』あせってはなりません。問題を細かく割って、一つ一つ地道に片づけていくのです。ルロイのこの言葉を忘れないでください。」

①冗談じゃないぞ、と思った。これでは、遺言を聞くために会ったようなものではないか。そういえば、さっきの握手もなんだか変だった。「それは実に穏やかな握手だった。②ルロイ修道士は病人の手でも握るようにそっと握手をした。」というように感じたが、実はルロイ修道士が病人なのではないか。元園長は何かの病にかかり、③この世のいとまごいに、こうやって、かつての園児を訪ねて歩いているのではないか。

「日本でお暮らしになっていて、楽しかったことがあったとすれば、それはどんなことでしたか。」

先生は重い病気にかかっているのでしょう、そして、これはお別れの儀式なのですねときこうとしたが、さすがにそれは④はばかられ、結局は、⑤平凡な質問をしてしまった。

「それはもう、こうやっているときに決まっています。天使園で育った子供が世の中へ出て、一人前の働きをしているのを見るときがいっとう楽しい。何よりもうれしい。そうそう、⑥あなたは上川君を知っていますね。上川一雄君ですよ。」

［　］知っている。ある春の朝、天使園の正門の前に捨てられていた子だ。捨て子は春になるとぐんと増える。陽気がいいから、発見されるまで長くかかっても風邪を引くことはあるまいという、母親たちの最後の愛情が春を選ばせるのだ。

（教科書P.20〜21／井上ひさし「握手」）

(1) ⓐ・ⓑの漢字をひらがなに直しなさい。

(2) ——線①「冗談じゃないぞ、と思った」とあるが、このときの「わたし」の気持ちとしてあてはまらないものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 先生が重い病気にかかっていることを信じたくないと考えている。

イ 先生は別れを告げにやってきたのではないかと疑っている。

ウ 先生の話を聞くために会ったのではないと腹立たしく思っている。

エ 先生の口から遺言のようなことを聞きたくないと思っている。

(3) ——線②「ルロイ修道士」、⑥「あなた」と同じ人を指す別の表現を、②は三字（ただし、「ルロイ」「修道士」を除く）、⑥は六字でそれぞれ文章中から書き抜きなさい。

(4) ——線③「この世のいとまごい」を別の言葉で表現した部分を文章中から六字で書き抜きなさい。

(5) ——線④「はばかられ」たために口に出さなかった「わたし」の言葉を文章中から抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

(6) ——線⑤「平凡な質問」に対する答えを具体的に述べた部分を文章中から三十四字で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

(7) ［　］に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア あるいは　イ そもそも　ウ きっと

エ もちろん　オ とにかく

1 (1)各5点、(5)(6)20点、(5)(6)完答、他各10点

(1)	(2)	(3) ②	(3) ⑥	(4)	(5) 初め	(5) 終わり	(6) 初め	(6) 終わり	(7)
ⓐ ぶんかつ / ⓑ ゆいごん	ウ	元園長	かつての園児	お別れの儀式	先生は重い	なのですね	天使園で育	を見るとき	エ

(2) 「わたし」はルロイ先生の体を心配してあれこれ思いを巡らしているが、腹を立てている様子は見られない。

(3) 第二段落に、「ルロイ修道士」と「わたし」を指す言葉がある。「元園長」（＝「ルロイ修道士」）と「かつての園児」（＝「わたし」）である。

(4) 「いとまごい」とは、別れのあいさつをすること。

(6) 平凡な質問というのは、日本で暮らして「楽しかったことがあったとすれば、それはどんなことでしたか」という問いかけ。ルロイ先生の答えは、「こうやっているとき」＝「天使園で育った子供が世の中へ出て、一人前の働きをしているのを見るとき」である。

5

教科書 P.28〜31

深まる学びへ

学びて時に之を習ふ——「論語」から

学習した日　月　日

光村・国語中3

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

A　子曰はく、「学びて時に之を習ふ、亦説ばしからずや。朋遠方より来たる有り、亦楽しからずや。[A]、亦君子ならずや。」と。

子曰、「学而時習之、不亦説乎。

有朋自遠方来、不亦楽乎。

人不知而不慍、不亦君子乎。」（学而）

B　子曰はく、「故きを温めて新しきを知れば、以て師為るべし。」と。

子曰、「温故而知新、可以為師矣。」（為政）

C　子曰はく、「学びて思はざれば則ち罔し。思ひて学ばざれば則ち殆し。」と。

子曰、「学而不思則罔。思而不学則殆。」（為政）

D　子曰はく、「之を知る者は、之を好む者に如かず。之を好む者は、之を楽しむ者に如かず。」と。

子曰、「知之者、不如好之者。

好之者、不如楽之者。」（雍也）

（教科書P.29〜30／「学びて時に之を習ふ——『論語』から」）

(1) ——線①「子」とはここでは誰のことか。漢字二字で答えなさい。

(2) よくでる ——線②「亦説ばしからずや」の口語訳として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　またうれしいことだろうか。　イ　なんとうれしいことではないか。

ウ　喜ばしいことはないはずだ。　エ　どうにも喜ぶべきことではない。

(3) [A]に入る書き下し文を答えなさい。

(4) ——線③「君子」の意味を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　親や兄弟　イ　僧侶　ウ　弟子　エ　人格者

(5) Bの漢文の□に入る漢字一字を、書き下し文の中から書き抜きなさい。

(6) よくでる Bの漢文から作られた、四字の故事成語を答えなさい。

(7) ——線④「学而不思則罔」に、書き下し文に従って訓点を補いなさい。

(8) よくでる ——線⑤「之を好む者に如かず」の口語訳として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　これを好む者にもこれを勝る。　イ　これを好む者だろう。

ウ　これを好む者にかなわない。　エ　これを好む者にちがいない。

(9) 「論語」について説明した次の文の（　）にあてはまる言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

論語は（①）やその（②）たちの言行を記録したもので、（①）は（③）や（④）を高めることによって世を治めることを理想とした。（⑤）のみならず（⑥）の学問や思想にも大きな影響を及ぼした。

ア　中国　イ　日本　ウ　子供　エ　弟子　オ　孔子

カ　学力　キ　人格　ク　意識　ケ　道徳

1 (1)(4)(9)各5点　(9)③④順不同、他各10点

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9) ①	(9) ②	(9) ③	(9) ④	(9) ⑤	(9) ⑥
孔子	イ	人知らずして慍みず	エ	師	温故知新	学而不思則罔	ウ	オ	エ	キ	ケ	ア	イ

ポ (2) 「また〜や」は「なんと〜ではないか」と訳す。

ポ (3) 一字戻って読むし点に注意する。「学びて〜説ばしからずや」の文から、「而」は読まないこと、「不」は「ず」とひらがなに直すことがわかる。

ポ (4) 孔子が理想とする、徳の高い人格者として、「論語」にはたびたび登場する。

ポ (5) 漢文と書き下し文を照らし合わせると、「師」が入ることがわかる。

ポ (8) 「〜に如かず」は、「〜に及ばない。かなわない」と訳す。

ポ (9) 「論語」は孔子とその弟子たちとの問答などをまとめた書物である。

6

教科書 P.32〜33・38〜39・40

深まる学びへ

情報整理のレッスン　情報の信頼性／漢字1　熟語の読み方／漢字に親しもう1

学習した日　月　日

光村・国語中3

時間25分　100点

1 次の各問いに答えなさい。

(1) 情報についてまとめた次の文の（　）にあてはまる言葉を、あとの［　］から選び答えなさい。

わたしたちが触れる情報の多くは、本、新聞、テレビ、インターネットなどの（①）を通じて発信されている。

それらの情報はすべて、発信者によって（②）されている。同じ事実を伝えた情報でも、発信者がどう伝えるかによって、受け取る側の（③）は大きく変わってくる。

そのため、情報が事実として正しいか、裏づけとなる（④）はあるかなど、情報の（⑤）を確かめることを忘れないことが大切だ。

［　印象　信頼性　根拠　編集　メディア　］

(2) インターネットの情報を読むとき、情報の信頼性を確かめるチェックポイントとして間違っているものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　どんな目的で発信されているか　イ　誰が発信した情報か

ウ　多くの人が引用している情報か　エ　いつ発信された情報か

オ　いつ更新された情報か

2 次の各問いに答えなさい。

(1) よくでる 次の熟語は、①重箱読み、②湯桶読みのどちらになるか、記号で答えなさい。

ア　夕刊　イ　仕事　ウ　荷物

エ　毎朝　オ　台所　カ　手帳

(2) よくでる 次の熟語を（　）の読み方で読み、ひらがなで答えなさい。

①　ア　崩落（音読み）　イ　雪崩（熟字訓）

②　ア　梅雨（音読み）　イ　梅雨（熟字訓）

3 次の（　）にあてはまる漢字をあとの［　］から選んで四字熟語を作り、その読みを答えなさい。

(1) 深（①）（②）谷

(2) 換（③）奪（④）

［　腹　山　胎　脱　骨　川　幽　筋　］

1 各5点

(1) ①	(1) ②	(1) ③	(1) ④	(1) ⑤	(2)
メディア	編集	印象	根拠	信頼性	ウ

ポ (2) ウ「多くの人が引用している」情報でも、信頼できる情報とは限らないことに注意しよう。

2 各5点

(1) ア	(1) ウ	(1) オ	(2) ①	(2) ②
②	②	①	ほうらく	ばいう
イ	エ	カ	イ	ア
①	①	②	なだれ	つゆ

ポ (1) ウ「物」の音読みには「ブツ」「モツ」がある。訓読みは「もの」だけなので注意しよう。

3 各5点（①②と③④は完答）

(1) ①	(1) ②	(1) 読み	(2) ③	(2) ④	(2) 読み
山	幽	しんざんゆうこく	骨	胎	かんこつだったい

ポ (2) 「換骨奪胎」は、昔の作品の表現などを生かして独自の作品を作ること。

7

教科書 P.42〜49

視野を広げて

作られた「物語」を超えて①

学習した日　　月　　日

光村　国語中3

時間25分　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私たちは、①野生動物の行動を誤解することがよくある。かつてライオンやトラを凶暴な動物、キツネやタヌキをずる賢い動物と見なしていた。そう見えたのは、人間が彼らを追い詰めて敵対的な行動を取らせ、それを人間に都合がいいように解釈してきたからである。いわば、人間が作った「物語」である。このような「物語」は動物たちに大きな悲劇をもたらすことがある。

私が研究している②ゴリラはその格好の例である。十九世紀の中頃にアフリカで初めてゴリラに出くわしたヨーロッパの探検家たちは、ゴリラをとても凶暴で好戦的な動物と見なした。それは、二足で立ち上がり、てのひらで交互に胸をたたくドラミングとよばれる行動を、戦いを宣言していると解釈したからだった。ドラミングをするゴリラのオスを見て、襲われる恐怖におびえた探検家たちはジュウの引き金を引いてゴリラを撃ち殺したのである。やがて、ゴリラをモデルにした「キング・コング」という映画が製作されて世界の人気をさらい、人々はますますゴリラを暴力の③権化、戦い好きな怪物と見るようになった。

私がアフリカで野生のゴリラを研究するようになったのは、もう四十年以上も前のことだ。まだゴリラは［A］動物と考えられていた。［B］、ゴリラの群れの中に入ってじっくり観察できるようになると、このイメージは人間によって作られたもので、大きな間違いであることがわかってきた。

（教科書P.42〜43／山極寿一「作られた『物語』を超えて」）

(1) ①線のカタカナを漢字に直しなさい。

(2) よくでる ②線①「野生動物の行動を誤解する」について、次の問いに答えなさい。

Ⅰ 具体的にどのような「誤解」をしたのか。それが読み取れる一文を第一段落の中から抜き出し、初めの五字を答えなさい。

Ⅱ 「野生動物の行動を誤解する」と同じ意味になるように、次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から十字で書き抜きなさい。（記号を含む）

野生動物の行動を（　　）にはめこむ。

(3) よくでる ②線②「ゴリラはその格好の例である」とあるが、何の「格好の例」なのか。「悲劇」という言葉を使って説明しなさい。

(4) ②線③「十九世紀の中頃に……凶暴で好戦的な動物と見なした」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 映画「キング・コング」でゴリラの正体が明かされたため。
イ ゴリラに襲われて身を守るために撃ち殺す経験をしたため。
ウ ゴリラのドラミングを戦いの宣言だと解釈したため。

(5) ②線④「権化」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 化身　イ 集中　ウ 権威　エ 解散

(6) ［A］に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 積極的で賢い　イ 暴力的で恐ろしい　ウ 平和的で優しい

(7) ［B］に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 例えば　イ だから　ウ しかし　エ さて

1 (1)5点、(2)(4)各15点、(3)20点、他各10点

(1)	(2) Ⅰ	(2) Ⅱ	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)
銃	かつてライオン	人間が作った「物語」	(例)人間が作った「物語」が動物たちに大きな悲劇をもたらした例。	ウ	ア	イ	ウ

ポイント (1) 直後で、ライオン、トラ、キツネ、タヌキについて述べられている。

(2)Ⅱ 同じ段落に、「いわば」とある部分に着目する。「誤解」は「人間に都合がいいように解釈」することであり、言い換えるならば、「人間が作った『物語』」であるという文脈になっている。

(3) 直前に、「このような……もたらすことがある」とある。

(6) 直前に「まだ」とあるので、筆者が野生のゴリラの研究を始めた四十年以上前には、十九世紀の中頃からのゴリラのイメージがそのまま引き継がれていると読み取れる。

8

教科書 P.42〜49

視野を広げて

作られた「物語」を超えて②

学習した日　　月　　日

光村　国語中3

時間25分　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

アフリカの森で暮らすゴリラの調査を通じて、私は人間の、自然や動物、そして人間自身を見る目がいかに①誤解に満ちているかを知ることができた。その②誤解を解くためには、相手の立場に立って、一つ一つの行動にどんな意味があるかを考えることが必要である。人から伝え聞いた「物語」と実際に自分が向かい合っている現象とを照らし合わせ、これまでの常識を疑ってみる態度も必要となる。「物語」によって作られた常識の陰に、しいたげられている生き物や人間がいないか、意味を取り違えて③排除していることがないか、思いを巡らすことが大切だと思う。

ドラミングが戦いの宣言だという「物語」の誤解を超えた先には、「ゴリラが人間とは別の表現を用いて平和を保っている」という私にとって新しい価値をもつ豊かな世界が広がっていた。体の仕組みや能力の違う動物の視点に立つためには、その動物が暮らしている自然をよく知ることが必要になる。同じように、この地球に生きるさまざまな人々に起きている「物語」の真実を知るためには、その人々が暮らしている［　　］が必要であろう。

（中略）現代はさまざまな文化や社会で暮らす人々が国境を越えて行き交う時代である。だからこそ、自分勝手な独りよがりな解釈を避け、常識を疑うこと、何より自分を相手の立場に置き換えて考えてみる視点が重要である。④作られた「物語」を超えて、その向こうにある⑤真実を知ろうとすることが、新しい世界と出会うための鍵なのだ。

（教科書P.46〜47／山極寿一「作られた『物語』を超えて」）

(1) ①線①「誤解」について、「私」は人間が何について誤解していると述べているか、文章中から三つ書き抜きなさい。

(2) ②線②「誤解を解く」について、次の問いに答えなさい。

Ⅰ 「私」は「誤解を解く」ことで何と出会えたと言っているか。文章中から十八字で書き抜きなさい。

Ⅱ よくでる 「私」は「誤解を解く」ために何が必要だと述べているか。次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

（①二字）を疑い、（②五字）に立って考えること。

(3) ②線③「排除」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 選択　イ 混入　ウ 除去　エ 添加

(4) ［　　］に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 環境がいかにひどいかを把握すること
イ 文化や社会をよく理解すること
ウ 地域の動物と深く関わりあうこと

(5) よくでる ②線④「作られた『物語』」とあるが、ゴリラについて「作られた『物語』」とは何か。文章中の言葉を使って書きなさい。

(6) ②線⑤「真実」とあるが、ゴリラに関する真実とは何か。文章中から二十四字で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

1 各10点（(1)順不同、(6)完答）

(1)	(2) Ⅰ	(2) Ⅱ	(3)	(4)	(5)	(6) 初め	(6) 終わり
・自然 ・動物 ・人間自身	私にとって新しい価値をもつ豊かな世界	①常識 ②相手の立場	ウ	イ	(例)ドラミングが戦いの宣言だということ。	ゴリラが人	保っている

ポイント (2)Ⅱ ②線②の後ろに、「誤解を解く」ために必要なことが述べられている。

(5)(6) 第二段落に「ドラミングが……世界が広がっていた」とある。

9

教科書 P.50～51・60　光村 国語中3

視野を広げて

思考のレッスン　具体化・抽象化／漢字に親しもう2

学習した日　月　日

時間25分　/100点

1 次の各問いに答えなさい。

(1) 具体と抽象の関係についてまとめた次の文の（　）にあてはまる言葉を、あとの［　］から選び、答えなさい。

ⓐ 説明的な文章では、筆者の主張に対して、複数の事例や（①）を挙げて解説することが多い。

［　まとめ　要旨　意見　根拠　］

ⓑ このようなとき、複数の事例などを（②）、筆者の主張を（③）と言うことがある。

［　具体　抽象　］

(2) 次のⅠ・Ⅱのような文章の流れは、それぞれA「抽象から具体への展開」・B「具体から抽象への展開」のどちらになるか、AかBの記号で答えなさい。

Ⅰ	Ⅱ
（①） 複数の事例を挙げる ← 「つまり」「このように」「以上のことから」 ← 結論や主張を述べる	（②） 結論や法則を述べる ← 「例えば」「具体的には」「その例として」 ← 複数の事例を挙げる

1 各5点

(1) ①	(1) ②	(2) ①	(2) ②
根拠	具体	抽象	A
③		B	

(1) 説明的な文章の中では、「まとめ」「要旨」「意見・主張」などを抽象、「事例」「根拠」などを具体と呼ぶことがある。

(2) Ⅰは最初にいろいろな事例を挙げ、それらを基に何が言えるのかという結論や主張を述べる流れとなっていて、「具体から抽象への展開」といえる。また、Ⅱは最初に結論や法則などを述べ、次に個別の例を示す流れとなっていて、「抽象から具体への展開」といえる。

2 次の各問いに答えなさい。

(1) よくでる 次の――線は〈人〉が部首の漢字である。それぞれの熟語の読みを答えなさい。

① 模倣　② 俊英　③ 偵察　④ 伴侶
⑤ 倹約　⑥ 同僚　⑦ 傲慢

(2) よくでる 次の――線の漢字の読みの違いに注意して、それぞれの熟語の読みを答えなさい。

① ア 発作　イ 発想
② ア 使命　イ 寿命
③ ア 長兄　イ 兄弟
④ ア 宗家　イ 宗教

2 各5点

(1) ①	(1) ③	(1) ⑤	(1) ⑦	(2) ①	(2) ②	(2) ③	(2) ④
もほう	ていさつ	けんやく	ごうまん	ア	ア	ア	ア
②	④	⑥		ア	ア	ア	ア
しゅんえい	はんりょ	どうりょう		ほっさ	しめい	ちょうけい	そうけ
				イ	イ	イ	イ
				はっそう	じゅみょう	きょうだい	しゅうきょう

10

教科書 P.61・62～63・212～214　光村 国語中3

視野を広げて／情報社会を生きる

文法への扉1　すいかは幾つ必要？／実用的な文章を読もう

学習した日　月　日

時間25分　/100点

1 次の各問いに答えなさい。

(1) よくでる 次の文が【　】内の意味になるには、（ア）・（イ）のどちらに読点を付けたらよいか。記号で答えなさい。

① 私は（ア）泣きながら（イ）走る妹を追いかけた。
【泣いているのは妹】

② 真っ赤な（ア）太陽に照らされた（イ）トマト。
【真っ赤なのはトマト】

③ 大きな（ア）柱時計のある（イ）部屋に入る。
【大きいのは柱時計】

(2) よくでる 次の文の（　）に入る言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

① （　）雨が降るようなら、キャンプは中止だ。
② （　）車道に飛び出してはいけないよ。
③ （　）苦しくても、最後までやり抜く。
④ （　）彼は合格するだろう。
⑤ （　）夢のような出来事だ。

ア もし　イ たぶん　ウ まるで
エ たとえ　オ 決して

1 各5点

(1) ①	(1) ②	(1) ③	(2) ①	(2) ②	(2) ③	(2) ④	(2) ⑤
ア	ア	イ	ア	オ	エ	イ	ウ

(1) ①【泣いているのは妹】なので、「泣きながら走る妹」と続ける。②【真っ赤なのはトマト】なので、「真っ赤な」と「太陽」が続かないようにする。

2 次の各問いに答えなさい。

(1) 次の中から実用的な文章としてあてはまらないものを選び、記号で答えなさい。

ア 学校の掲示板のお知らせ　イ スーパーのちらし
ウ テレビの取扱説明書　エ 電子書店で買った小説
オ 市役所からの広報

(2) 次の二枚のちらしは、上が大人向けで、下が子供向けになっている。あとの①～⑤について、子供向けのちらしにあてはまるものにA、あてはまらないものにBと、記号で答えなさい。

A市写生大会のご案内

18日の午後1時よりA中央公園で写生大会を開催します。
参加希望者は15日までに市役所の〇〇課に申し込んでください。
※中学生以上は一人での参加可。
※小雨決行。雨具を持ってきてください。

おえかきをしよう

18にちの　ごご1じから
Aちゅうおうこうえんで
しゃせいたいかいが　はじまるよ。
おうちの　ひとと　いっしょに
きてね。

① 大人向けのちらしより大きな字で書いてある。
② 子供に対して語りかけるような表現で書いてある。
③ 大人向けのちらしにある情報はすべて書いてある。
④ 申し込み方法が書いてある。
⑤ 子供が親しみを感じるようなデザインになっている。

2 各10点

(1)	(2) ①	(2) ②	(2) ③	(2) ④	(2) ⑤
エ	A	A	B	B	A

(1) 実用的な文章は、必要な情報を伝えるための文章なので、小説をはじめとした物語などの本はあてはまらない。

(2) 子供向けのちらしにあてはまるのは①②⑤。③④は、大人向けのちらしにある申し込み方法などが子供向けには書かれていないのであてはまらない。

11 俳句の可能性

教科書 P.70〜73　言葉とともに

光村 国語中3

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

①どの子にも涼しく風の吹く日かな　飯田龍太

この句には、「どの子」とは誰なのか、風の吹いている場所はどこなのか、現在のことなのか、過去のことなのか、時間は午前なのか午後なのか、そのような説明が何も書かれていない。わかっているのは、季節が夏であること、子供が複数いること、その子たちに涼しい風が分け隔てなく吹いているということだけである。

俳句が②散文や報道記事などと違うのは、省略されている部分を、読む人の自由な解釈で補って鑑賞できるというところである。（中略）

そんな想像をかきたてる個々別々の言葉を一つにつないでいるのが、[A]という「定型」と、「[B]」という[C]を表す言葉、すなわち「季語」である。詳しい説明を省略する俳句には、一句の柱となる言葉に「季語」を用い、それを[A]という「定型」で表現するという基本的な約束がある。この約束を「[D]」といい、俳句という韻文を支える大きな力となっている。「[B]」が[C]の季語であることを知るには「歳時記」を繰ればよい。

（教科書P.70〜71／宇多喜代子「俳句の可能性」）

(1) よくでる ——線①の俳句について、次の問いに答えなさい。

Ⅰ [B]と[C]に入る季語と季節を、季語は二字、季節は一字で答えなさい。

Ⅱ 「切れ字」を書き抜きなさい。

(2) ——線②「散文」の対義語を文章中から書き抜きなさい。

(3) [A]に入る三つの数字を漢数字で答えなさい。

(4) [D]に入る俳句の「基本的な約束」を四字で答えなさい。

2 次の俳句について、あとの問いに答えなさい。

いくたびも雪の深さを尋ねけり

(1) よくでる 季語と季節を答えなさい。季節は一字で答えること。

(2) よくでる 「切れ字」を書き抜きなさい。

(3) 作者を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 小林一茶　イ 松尾芭蕉　ウ 与謝蕪村　エ 正岡子規

(4) この俳句の鑑賞文として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 雪の深い山を登っていて、降り積もる雪に苦労している。

イ 明日は雪で外出できないかもしれないと心配している。

ウ 外の雪を見られない病床の自分をもどかしく感じている。

エ 雪で楽しく遊ぶ子供たちをほほえましく思っている。

1 (1)Ⅱ5点、他各10点

(1)	Ⅰ	季語	涼し	B
				C
	Ⅱ	かな		
(2)		韻文		
(3)		五・七・五		
(4)		有季定型		

★(1)Ⅰ 吹く風を「涼し（涼しい）」と感じるのは「夏」なので、「涼し」が「夏」の季語になる。Ⅱ 「切れ字」になる言葉は決まっているので、しっかりおさえておく。

★(2) 約束事がなく、自由に表現する文章が「散文」である。これに対して、俳句のように定型など約束事のある文章を「韻文」という。

★(4) 季節を表す季語があって、言葉の数が決まっている＝「定型」であるので、「有季定型」という。

2 (2)5点、他各10点

(1)	季語	雪	
	季節	冬	
(2)		けり	
(3)		エ	
(4)		ウ	

★(2) 「けり」「かな」の他に「や」も切れ字として用いられる。

★(4) 作者である正岡子規は、この句を詠んだとき病床にあり、起き上がって外を眺めることもできない状態であった。雪景色を想像するしかないもどかしさを感じているのである。

12 俳句を味わう

教科書 P.74　言葉とともに

光村 国語中3

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の俳句を読んで、あとの問いに答えなさい。

A 赤い椿白い椿と落ちにけり　河東碧梧桐

B 萬緑の中や吾子の歯生え初むる　中村草田男

C 金剛の露ひとつぶや石の上　川端茅舎

D 冬菊のまとふはおのがひかりのみ　水原秋櫻子

E 咳をしても一人　尾崎放哉

（教科書P.74／「俳句を味わう」）

(1) Aの俳句について、次の問いに答えなさい。

① よくでる 季語と季節をそれぞれ一字で答えなさい。

② Aの俳句について説明した次の文の（ ）にあてはまる言葉を答えなさい。

Aは、椿の（あ）が続けて落ちた瞬間をとらえたもので、（い）と（う）の対比が鮮やかな印象を残す一句である。

(2) Bの俳句について、次の問いに答えなさい。

① よくでる 季語、季節、切れ字を答えなさい。季節は一字で答えること。

② 鑑賞文として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 季節の変化に取り残されてしまう人間の悲しさを表している。

イ 自然の美しさや、我が子の若さに対する羨望を表している。

ウ 生い茂る草木の生命力と、我が子の成長を喜ぶ思いを表している。

(3) Cの俳句について、次の問いに答えなさい。

① よくでる 季語と季節をそれぞれ一字で答えなさい。

② 用いられている表現技法を次から二つ選び、記号で答えなさい。

ア 隠喩　イ 対句　ウ 体言止め　エ 反復

③ 「金剛」にたとえられているのは何か。俳句の中から一字で書き抜きなさい。

(4) Dの俳句について、次の問いに答えなさい。

① よくでる 季語、季節を答えなさい。季節は一字で答えること。

② Dの俳句について説明した次の文の（ ）にあてはまる言葉を答えなさい。

「おのが」とは「（　）」という意味である。Dは冬菊の清々しさを、「おのがひかりのみ」を「まとふ」ように見える、と表現した一句である。

(5) Eの俳句について、次の問いに答えなさい。

① よくでる このように定型ではない俳句を何というか。答えなさい。

② 表現している内容を端的に表した熟語として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 安心　イ 未来　ウ 幸福　エ 孤独

1 (3)②・(4)②各10点（(3)②順不同・完答）、他各5点（(1)②い・う順不同）

(1)	①	季語	椿	
		季節	春	
	②	あ	花	
		い	赤	
		う	白	
(2)	①	季語	萬緑	
		季節	夏	
		切れ字	や	
	②		ウ	
(3)	①	季語	露	
		季節	秋	
	②		ア・ウ	
	③		露	
(4)	①	季語	冬菊	
		季節	冬	
	②		(例)自分の	
(5)	①		自由律俳句	
	②		エ	

★(2) ②「萬緑」と「吾子」の生命力について詠まれた句である。

★(3) ②「金剛の」は「金剛のような」という意味の隠喩である。また、「石の上」という体言で終わっているため、「体言止め」である。

★(4) ②「おのが」は己（おの）が」と書き、「自分の」という意味である。

★(5) ②咳をしても声をかけたり心配したりしてくれる人もいないということから、孤独な様子が読み取れる。

13

言葉とともに

言葉を選ぼう もっと「伝わる」表現を目ざして／言葉1 和語・漢語・外来語

教科書 P.76～77・78～79　光村 国語中3

学習した日　　月　　日

時間25分　/100点

1 次の言葉とほぼ同じ意味の言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

① コンサート　② ハンガー　③ ちり紙　④ 水中眼鏡　⑤ アーティスト

ア えもんかけ　イ ティッシュ　ウ 芸術家　エ ゴーグル　オ 演奏会

2 次の各問いに答えなさい。

(1) よくでる 次の言葉はあとのア～エのどれにあたるか。あてはまる記号を答えなさい。

① 花火大会　② ボタン　③ 生活　④ ぽく　⑤ 言葉　⑥ メモ　⑦ 暮らし　⑧ 言語　⑨ 古新聞

ア 和語　イ 漢語　ウ 外来語　エ 混種語

(2) よくでる 次の例と同じ「和語・漢語・外来語」の組み合わせになるように、（　）に入る適切な語を答えなさい。

（例）考え ― 意見 ― オピニオン

① （ア）― 水泳 ―（イ）

② 速さ ―（ウ）―（エ）

③ （オ）― 解約 ―（カ）

1 各5点

①	②	③	④	⑤
オ	ア	イ	エ	ウ

☆2 ア「えもんかけ」は「衣紋掛」と書く。「衣紋」は衣服のこと。

2 各5点

(1) ①	(1) ③	(1) ⑤	(1) ⑦	(1) ⑨	(2) ① ア	(2) ① イ	(2) ② ウ	(2) ② エ	(2) ③ オ	(2) ③ カ
エ	イ	ア	ア	エ	泳ぎ	スイミング	速度	スピード	取り消し	キャンセル

(1) ②	(1) ④	(1) ⑥	(1) ⑧
ウ	イ	ウ	イ

☆1 和語と漢語は、訓読みか音読みかに注意して見分けよう。④「ぽく」は「僕」の音読みで漢語。⑦「暮らし」と③「生活」、⑤「言葉」と⑧「言語」はほぼ同じ意味だが、前者が和語で後者が漢語。⑨「古新聞」は、「古」（和語）＋「新聞」（漢語）の混種語。

14

状況の中で

挨拶――原爆の写真によせて

教科書 P.94～97　光村 国語中3

学習した日　　月　　日

時間25分　/100点

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

挨拶――原爆の写真によせて　石垣りん

あ、
この焼けただれた顔は
①一九四五年八月六日
その時広島にいた人
②二五万の焼けただれのひとつ
すでに此の世にないもの
とはいえ
友よ
向き合った互の顔を
も一度見直そう
戦火の跡もとどめぬ
すこやかな今日の顔
すがすがしい朝の顔を
その顔の中に明日の表情をさが
すとき
私はりつぜんとするのだ

（教科書P.94～96／石垣りん「挨拶――原爆の写真によせて」）

地球が原爆を数百個所持して
④生と死のきわどい淵を歩くとき
なぜそんなにも安らかに
あなたは美しいのか
しずかに耳を澄ませ
⑤何かが近づいてきはしないか
見きわめなければならないものは
目の前に
えり分けなければならないものは
手の中にある
⑥午前八時一五分は
毎朝やってくる
一九四五年八月六日の朝
一瞬にして死んだ二五万人の人
すべて
いま在る
あなたの如く　私の如く
やすらかに　美しく　⑦油断していた。

(1) よくでる ――線①「一九四五年八月六日」は何が起こった日か。十五字以内で説明しなさい。（句点を含む）

(2) ――線②「二五万の焼けただれのひとつ」とはどういうことか。詩の中の言葉を使って説明しなさい。

(3) ――線③「りつぜんとする」の意味を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 腹を立てる　イ 不安になる　ウ 悲しく思う　エ ぞっとする

(4) ――線④「生と……歩く」の説明を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 瀕死の状態である。　イ 生死の選択をする。

ウ 生死が隣り合わせている。　エ 生死の区別がつかない。

(5) ――線⑤「何か」の指すものを詩の中から二字で書き抜きなさい。

(6) よくでる ――線⑥「午前八時一五分は／毎朝やってくる」とはどういうことか。次の文の（　）にあてはまる言葉を書きなさい。

広島に原爆が投下された朝のような悲劇は（　　）。

(7) よくでる ――線⑦「油断していた」のここでの意味を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 戦争は終わったと思っていた。　イ 準備ができていなかった。

ウ 死ぬとは思っていなかった。　エ 不測の事態に用心していた。

(8) この詩の中で用いられている表現技法を二つ選び、記号で答えなさい。

ア 反復　イ 擬人法　ウ 体言止め　エ 倒置

1 (1)(2)各15点、(6)20点、他各10点　(8)順不同・完答

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
㈹広島に原爆が投下された日。	㈹一瞬にして死んだ二五万人のうちの一人ということ。	エ	ウ	原爆	㈹いつでも起こりうるということ	ウ	ウ　エ

☆1 一九四五年八月六日午前八時一五分、広島に原爆が投下された。

☆2 「一瞬にして死んだ二五万人の人すべて」という言葉に着目する。

☆5 「午前八時一五分」という言葉につながっていることから、「原爆」のことを指しているのだとわかる。

☆6 「毎朝やってくる」とは、同じような悲劇がいつでも起こるということである。

☆7 原爆が投下されるとは思っていなかったのである。

☆8 「その時広島にいた人」などの体言止めと、「も一度見直そう……すがすがしい朝の顔を」などの倒置が用いられている。

15 状況の中で 故郷①

教科書 P.98～113

学習した日　月　日

光村 国語中3

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

①厳しい寒さの中を、二千里の果てから、別れて二十年にもなる故郷へ、私は帰った。

もう真冬の候であった。そのうえ、故郷へ近づくにつれて、空模様は怪しくなり、冷たい風がヒューヒュー音を立てて、船の中まで吹き込んできた。苦の隙間から外をうかがうと、鉛色の空の下、わびしい村々が、いささかの活気もなく、あちこちに横たわっていた。②覚えず寂寥の感が胸に込み上げた。

③ああ、これが二十年来、片時も忘れることのなかった故郷であろうか。

私の覚えている故郷は、まるでこんなふうではなかった。私の故郷は、もっとずっとよかった。その美しさを思い浮かべ、その長所を言葉に表そうとすると、しかし、④その影はかき消され、言葉は失われてしまう。やはりこんなふうだったかもしれないという気がしてくる。そこで私は、⑤こう自分に言い聞かせた。もともと故郷はこんなふうなのだ――進歩もないかわりに、私が感じるような寂寥もありはしない。そう感じるのは、自分の⑥心境が変わっただけだ。なぜなら、⑦今度の帰郷は決して楽しいものではないのだから。

今度は、故郷に別れを告げに来たのである。私たちが長いこと一族で住んでいた古い家は、今はもう他人の持ち物になってしまった。明け渡しの期限は今年いっぱいである。どうしても旧暦の正月の前に、住み慣れた古い家に別れ、なじみ深い故郷をあとにして、私が今暮らしを立てている異郷の地へ引っ越さねばならない。

（教科書P.98～99／魯迅・竹内好訳「故郷」）

(1) ――線①「厳しい……私は帰った」とあるが、なぜ故郷へ帰って来たのか。文章中から十一字で書き抜きなさい。

(2) ――線②「覚えず寂寥の感が胸に込み上げた」とあるが、どんな様子を見てそう感じたのか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

(3) よくでる ――線③「ああ、……あろうか」とあるが、このときの「私」の気持ちとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 感動　イ あせり　ウ 喜び　エ 寂しさ

(4) ――線④「その影」を十字以内で説明しなさい。（句点を含む）

(5) よくでる ――線⑤「こう自分に言い聞かせた」とあるが、どんなことを言い聞かせたのか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

(6) ――線⑥「心境」の意味を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 心配り　イ 心持ち　ウ 心づもり　エ 心遣い

(7) よくでる ――線⑦「今度の帰郷は……ない」とあるが、その理由を説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

（①八字）に別れて故郷をあとにして、（②四字）へ引っ越さねばならないから。

1 (2)(5)20点、他各10点

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7) ①	(7) ②
故郷に別れを告げに来た	(例)鉛色の空の下、わびしい村々が、いささかの活気もなく、あちこちに横たわっている様子。	エ	(例)故郷の美しさや長所。	(例)故郷の様子は変わっておらず、変わったと思って寂寥を感じるのは、自分の心境が変わったからであるということ。	イ	住み慣れた古い家	異郷の地

(1)故郷を見て、「寂寥の感」を覚えていることをおさえる。

(3) 今の故郷の様子に「寂寥の感」を覚えていること、「私の覚えている……なかった」とあることから、失望や寂しさを感じているとわかる。

(4) 故郷の美しさや長所を言葉にしようとしているということをおさえる。

(7) 「故郷に別れを告げに来た」を具体的に説明している部分から読み取る。

16 状況の中で 故郷②

教科書 P.98～113

学習した日　月　日

光村 国語中3

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

来た客はルントウである。ひと目でルントウとわかったものの、そのルントウは、①私の記憶にあるルントウとは似もつかなかった。背丈は倍ほどになり、昔の艶のいい丸顔は、今では黄ばんだ色に変わり、しかも深いしわが畳まれていた。目も、彼の父親がそうであったように、周りが赤く腫れている。私は知っている。海辺で耕作する者は、一日中潮風に吹かれるせいで、②よくこうなる。頭には古ぼけた毛織りの帽子、身には薄手の綿入れ一枚、全身ぶるぶる震えている。紙包みと長いきせるを手に提げている。③その手も、私の記憶にある血色のいい、丸々した手ではなく、太い、節くれだった、しかもひび割れた、松の幹のような手である。

私は、感激で胸がいっぱいになり、しかし④どう口をきいたものやら思案がつかぬままに、ひと言、

「ああルンちゃん――よく来たね……。」

続いて言いたいことが、後から後から、数珠つなぎになって出かかった。チアオチー、跳ね魚、貝殻、チャー……。だが、それらは、何かでせき止められたように、頭の中を駆け巡るだけで、口からは出なかった。

彼は突っ立ったままだった。⑤喜びと寂しさの色が顔に現れた。唇が動いたが、声にはならなかった。最後に、⑥うやうやしい態度に変わって、はっきりこう言った。

「旦那様！　……。」

私は身震いしたらしかった。悲しむべき⑦厚い壁が、二人の間を隔ててしまったのを感じた。私は⑧口がきけなかった。

（教科書P.106／魯迅・竹内好訳「故郷」）

(1) ――線の漢字をひらがなに直しなさい。

(2) ――線①「私の記憶にあるルントウとは似もつかなかった」とあるが、ルントウの外見の変化について書かれたまとまりを文章中から抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。（句点を含む）

(3) ――線②「よくこうなる」とあるが、どうなるのか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

(4) ――線③「その手」とあるが、現在のルントウの手を比喩を用いて表現している部分を文章中から十字以内で書き抜きなさい。

(5) よくでる ――線④「どう口をきいたものやら思案がつかぬ」、⑧「口がきけなかった」とあるが、それはなぜか。理由を次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア 悲しみのため。　イ あせりのため。　ウ 興奮のため。

(6) よくでる ――線⑤「喜びと寂しさ」とあるが、それをルントウが示したのはなぜか。その理由を説明しなさい。

(7) ――線⑥「うやうやしい」の意味を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 礼儀正しい　イ 品が悪い　ウ もっともらしい

(8) よくでる ――線⑦「厚い壁」が生じた原因を五字以内で二つ答えなさい。

(9) 「私」の気持ちはどのように変化したか。次のア～ウを順番に並べかえなさい。

ア 衝撃と悲しみ　イ 感激となつかしさ　ウ 驚きと喜び

1 (1)(7)各5点、他各10点（(2)(9)完答、(8)順不同）

(1)	(2) 初め	(2) 終わり	(3)	(4)	(5) ④	(5) ⑧	(6)	(7)	(8) ・	(8) ・	(9)
だんな	背丈は倍ほ	手である。	(例)目の周りが赤く腫れる。	松の幹のような手	ウ	ア	(例)「私」と再会できたのはうれしいが、以前と同じようには接することができないことが寂しいから。	ア	(例)時間の経過	(例)身分の差	ウ→イ→ア

(3) 直前の部分に注目する。一日中潮風に吹かれるせいで、目の周りが赤く腫れるというのである。

(4) 比喩には、「ような」を用いる直喩と用いない隠喩がある。ここでは「松の幹のような」と直喩が使われていることに着目する。

(5) 同じ口がきけないのでも、それぞれ理由が異なるということをおさえる。

(6) 「喜び」と「寂しさ」の理由をそれぞれ説明する。

(8) ルントウが「私」を「旦那様」と呼んだことによって、二人の間に壁ができていることが実感させられたのである。

(9) 再会を驚いたあと、過去を回想してなつかしむが、悲しむべき現実に直面したのである。

17

教科書 P.98～113

状況の中で

故郷③

光村 国語中3

学習した日　月　日

時間25分　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私も横になって、船の底に水のぶつかる音を聞きながら、今、自分は、自分の道を歩いているとわかった。思えば①私とルントウとの距離は全く遠くなったが、若い世代は今でも心が通い合い、現にホンルはシュイションのことを慕っている。せめて彼らだけは、私と違って、互いに③隔絶することのないように……とはいっても、彼らが一つ心でいたいがために、私のように、むだの積み重ねで魂をすり減らす生活を共にすることは願わない。また、ルントウのように、打ちひしがれて心が④ⓜ痺する生活を共にすることも願わない。また、他の人のように、やけを起こして野放図に走る生活を共にすることも願わない。希望をいえば、②彼らは新しい生活をもたなくてはならない。③私たちの経験しなかった新しい生活を。

希望という考えが浮かんだので、私はどきっとした。たしかルントウが香炉と燭台を所望したとき、私は、相変わらずの偶像ⓒスウハイだな、いつになったら忘れるつもりかと、心ひそかに彼のことを笑ったものだが、今私のいう希望も、やはり⑤手製の偶像にすぎぬのではないか。ただ、彼の望むものはすぐ手に入り、私の望むものは手に入りにくいだけだ。

まどろみかけた私の目に、海辺の広い緑の砂地が浮かんでくる。その上の④ⓜコン碧の空には、金色の丸い月が懸かっている。思うに希望とは、もともとあるものともいえぬし、ないものともいえない。⑥それは地上の道のようなものである。もともと地上には道はない。歩く人が多くなれば、それが道になるのだ。

（教科書P.110～111／魯迅・竹内好訳「故郷」）

(1) ――線ⓐ～ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ――線①「私とルントウとの距離は全く遠くなった」とあるが、それはどういうことか。「心」という言葉を使って説明しなさい。

(3) ――線②「彼ら」、③「私たち」はそれぞれ誰のことを指すか。答えなさい。

(4) よくでる ――線④「手製の偶像にすぎぬのではないか」とあるが、それを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉の組み合わせとして最も適当なものをあとから選び、記号で答えなさい。

ルントウが香炉や燭台などの祭器を（①）するように、「私」も未来への（②）を心の支えにして満足しているにすぎないのではないか。

ア ①信仰　②偶像　　イ ①所望　②希望

ウ ①希望　②生活　　エ ①発見　②期待

(5) ――線⑤「私の望むもの」と同じ意味を表すものを、文章中から漢字二字で書き抜きなさい。

(6) よくでる ――線⑥「それは地上の道のようなものである」とあるが、それはどういうことか。文章中の言葉を使って、「それ」が指す内容を明らかにして説明しなさい。

1 (1)各5点、(2)(6)20点、他各10点（(3)②③順不同・完答）

(1)		(2)	(3)		(4)	(5)	(6)
ⓒ	ⓐ		②	③			
崇拝	かくぜつ	(例)私とルントウの心が離れ、わかり合えなくなったこと。	ホンル、シュイション	私、ルントウ	イ	希望	(例)道はもともと地上にはなく、歩く人が多くなればできるものであるように、希望も信じる人が多くなれば実現するということ。
ⓓ	ⓑ						
紺	麻						

(4)「偶像」とは「神や仏をかたどった像」のこと。「希望」が「手製の偶像」と表現されていることをおさえる。

(5)「彼（ルントウ）の望むもの」と「私の望むもの」が対比されていることをおさえる。

(6)「それ」が指しているのは「希望」である。また、「地上の道のようなものである」とは、希望が地上の道と同じように実現するということである。

18

教科書 P.117～118・119～121・122

状況の中で

言葉2 慣用句・ことわざ・故事成語／漢字2 漢字の造語力／漢字に親しもう3

光村 国語中3

学習した日　月　日

時間25分　/100点

1 次の各問いに答えなさい。

(1) 次の各文の（　）にあてはまる言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

① 結果を尋ねられても、（　）を濁す。

② 自分のことを（　）に上げて文句を言う。

③ 各チームが（　）を削っている。

④ （　）の細かい心配りをする。

ア 棚　イ きめ　ウ しのぎ　エ お茶

(2) 次の故事成語と同じ意味の慣用句・ことわざをあとから選び、記号で答えなさい。

① 肝胆相照らす

② 夏炉冬扇

③ 四面楚歌

④ 五十歩百歩

ア どんぐりの背比べ　イ 八方ふさがり

ウ 月夜に提灯　エ 気が置けない

1 各5点

(1)				(2)			
①	②	③	④	①	②	③	④
エ	ア	ウ	イ	エ	ウ	イ	ア

(2)① 「肝胆」は、「心の中」のこと。

2 次の各問いに答えなさい。

(1) 次の各文の――線の類義語をあとから選び、記号で答えなさい。

① 物事に執着する。

② 無能な王が追放される。

③ 頑固な人だ。

④ 凡庸な作品ばかりだ。

ア 放逐　イ 平凡　ウ 強情　エ 固執

(2) よくでる 次の熟語の対義語となるよう、□に入る漢字を［　］から選びなさい。

① 未読 ↔ □読

② 開園 ↔ □園

③ 陥没 ↔ 隆□

④ 叙事 ↔ 叙□

［起　情　既　閉］

3 よくでる 次の各文の――線の漢字の読みを答えなさい。

(1) あの人はいつも寡黙だ。

(2) サークルを主宰する。

(3) 彼は二人の子を扶養している。

(4) 適宜判断する。

2 各5点

(1)		(2)	
①	②	①	②
エ	ア	既	閉
③	④	③	④
ウ	イ	起	情

(1) ア「放逐」は「ほうちく」と読み、「追い払う」という意味。

(2) ④「叙事」の対義語は「叙情」。「叙事」は事実を述べること。「叙情」は自分の感情を表現すること。

3 各5点

(1)	(2)	(3)	(4)
かもく	しゅさい	ふよう	てきぎ

19

教科書 P.124〜125

自らの考えを

人工知能との未来

学習した日　　月　　日

光村 国語中3

時間25分

100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

膨大なデータと強大な計算力で最適解を導き出す①人工知能。それに対し人間は、経験からつちかった「美意識」を働かせて物事を判断しているといえます。人工知能が社会のあらゆる場面で意思決定に関与するようになれば、人間の「美意識」にはとても受け入れがたい判断をすることもあるでしょう。また、ⓐショウギソフトの*評価値が実はそうであるように、人工知能の判断が常に絶対的に正しいわけでもありません。つまり、私たち人間は、どこまで評価値の判断を参考にするかまで含めて、選択肢を考えていくことが必要になります。そして、このような判断力は、普段から自分で考えることでしか、養われないのです。

②人工知能が浸透する社会であっても、［　　］そのような社会だからこそ、私たちは今後も自分で思考し、判断していく必要があるといえます。（中略）

さらにいえば、人工知能は、③うまく活用すれば人間にとって大きな力となるはずです。ショウギソフトは人間が考えもしない手を指すと述べましたが、それは、自分の視座が変わるような見方を教えてくれるということでもあります。「自分はこう思うが、人工知能はどう判断するのか。」と、あくまでセカンドオピニオンとして人工知能を使っていく道もあるでしょう。また、人工知能が出した結論を基に、それが導き出された過程を分析し、自分の思考の幅を広げていく道もあるはずです。人工知能に全ての判断をⓒユダねるのではなく、人工知能から新たな思考やものの見方をつむいでいこうとする発想のほうが、より建設的だと思います。

実際、④ショウギ界では既に、人工知能が提示したアイデアを参考に新しい手が生み出されたり、そこからショウギの技術が進歩したりするケースが多く起こっています。人工知能によって人間の「美意識」そのものが変わっている⑤顕著な事例だといえるでしょう。

*評価値＝ショウギソフトが出す、局面が有利か不利かを判断する数値。

（教科書P.125／羽生善治「人工知能との未来」）

(1) ——線ⓐ〜ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ——線①「人工知能」と人間の違いについて、Ⅰ「人工知能」・Ⅱ「人間」がそれぞれ何を基準に物事を判断しているかを、それぞれ文章中から十五字以内で書き抜きなさい。（記号を含む）

(3) よくでる ——線②「人工知能が浸透する社会」で、筆者は人間には何が必要だと述べているか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

(4) ［　］に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　それゆえ　　イ　むしろ　　ウ　つまり　　エ　あくまで

(5) よくでる ——線③「うまく活用すれば人間にとって大きな力となる」とあるが、筆者が考える活用にあてはまるものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア　人工知能が結論を出した過程を分析して、人間の思考の幅を広げる。
イ　人工知能に全ての決断をゆだねて、人間の「美意識」を変える。
ウ　人工知能が人間から学び、「美意識」を判断できるようにする。
エ　人間が人工知能から学ぶことで、自分たちの「美意識」を鍛える。
オ　人間の判断のセカンドオピニオンとして人工知能の判断を参考にする。

(6) ——線④「ショウギ界」の変化は何を示しているか、書きなさい。

1 (1)各5点、(3)(6)20点、他各10点（(5)順不同・完答）

(1)		(2)						(3)	(4)	(5)	(6)
ⓒ	ⓐ	Ⅱ			Ⅰ						
委	将棋	美	ち	経	計	タ	膨	(例)自分で思考し、判断すること。	イ	ア……オ	(例)人工知能によって人間の「美意識」そのものが変わるということ。
ⓓ	ⓑ	意	か	験	算	と	大				
けんちょ	しんとう	識	っ	か	力	強	な				
		」	た	ら		大	デ				
			」	つ		な	ー				

★(3) 直後の内容をまとめるとよい。
★(5) 筆者が第三段落で述べていることと合致するものを選ぶ。
★(6) 最後の段落で筆者が何の「事例」について述べているのかに注意しよう。

20

教科書 P.126〜129・134

自らの考えを

人間と人工知能と創造性／漢字に親しもう4

学習した日　　月　　日

光村 国語中3

時間25分

100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

我々の研究によれば、コンピュータは一時間に十万作の小説を書くことが可能だ。どれも似たり寄ったりの内容だ（しかも、まだあまりおもしろくない）が、表面上は異なる作品である。人間の作家は、いくら速くてもこんなペースで作品を作ることはできない。

また人間の思いつきは、自由に発想しようとしてもどうしても偏りが出る。もっている知識やそれまでの経験にⓐ影響を受けてしまうのだ。その点、コンピュータは偏りのないものをたくさん生み出すことが得意である。例えば数字をばらばらに書いていくという作業をさせると、人間は偏りが生じて同じパターンに陥ってしまうが、コンピュータは各数字が等しい出現ⓑヒントになるように書き続けることができる。

いっぽうで、コンピュータにとって難しいのは、たくさんの作品の中から優れたものを選ぶことである。人間の創造性について考えてみよう。多くの場合、新しく思いつくことのほとんどは使いものにならない。新しいつもりでも誰かが既にやっていたことであったり、全く意味のないことであったりする。（中略）たくさんの候補の中から見込みのありそうなものだけを選び出す作業のことを「評価」とよぶことにする。人間のすばらしい創造性は、この評価の部分に基づいている。何をよいとするか、おもしろいとはどういうことか。コンピュータにはこの評価が難しいのである。

ここに、ⓒ人間と人工知能の関係の中で人間が果たすべき役割を考えるヒントがあると思う。人間とコンピュータは得意なことが異なる。したがって、それぞれが得意なことを分担し、共同して物事に当たるのがよい。

（教科書P.126〜127／松原仁「人間と人工知能と創造性」）

(1) ——線ⓐ・ⓑの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ——線①「人間の思いつきは……偏りが出る」とあるが、人間とコンピュータの発想のしかたの違いを具体的に述べた一文を文章中から抜き出し、初めの五字を答えなさい。

(3) よくでる 次の各文が、「人間」にあてはまる場合はA、「コンピュータ」にあてはまる場合はBを書きなさい。

① たくさんの候補の中からよいものを選ぶことが苦手である。
② 知識だけでなく、これまでの経験から影響を受ける。
③ 一時間で大量の小説を書くことができる。
④ 偏りのないものをたくさん生み出し続けることができる。

(4) よくでる ——線②「人間と人工知能の関係の中で人間が果たすべき役割」について、文章中の言葉を使って説明しなさい。

2 次の各問いに答えなさい。

(1) 次の——線は〈心〉が部首の漢字である。それぞれの熟語の読みを答えなさい。

① 追悼　② 懐然　③ 惰性　④ 哀愁

(2) 次の——線の漢字を、アは音で、イは訓で読みなさい。

① ア 守衛　イ お守り　② ア 個室　イ 氷室
③ ア 山麓　イ 山の麓

1 (1)(3)各5点、他各10点

(1)		(2)	(3)		(4)
ⓐ	ⓑ		①	③	
えいきょう	頻度	例えば数字	B	B	(例)よいもの（優れたもの）を選ぶという力をつかって創造性を発揮すること。
			②	④	
			A	B	

★(2) 人間とコンピュータの違いについては、第二段落の「例えば……」に具体的に説明されている。
★(3)② 「知識」「経験」から影響を受けるのはAの「人間」。第二段落の最初の二文にある。①・③・④はすべてBの「コンピュータ」についての文。
★(4) 人間が果たすべき役割が何かは、——線②の後ろにある「それぞれが得意なことを分担し、共同して物事に当たる」がヒントとなる。人間が得意なことは「よいものを選ぶ」ことである。

2 各5点

(1)		(2)			
①	③	①	②	③	
ついとう	だせい	ア しゅ	ア しつ	ア ろく	
②	④	イ ま	イ む	イ ふもと	
りつぜん	あいしゅう		ろ		

21 初恋

教科書 P.140～141　自らの考えを

学習した日　月　日

時間25分　/100点

1 次の詩を読んで、あとの問いに答えなさい。

初恋　島崎藤村

まだあげ初めし前髪の
林檎のもとに見えしとき
前にさしたる花櫛の
①花ある君と思ひけり

②やさしく白き手をのべて
林檎をわれにあたへしは
③薄紅の秋の実に
人こひ初めしはじめなり

わがこころなきためいきの
その髪の毛にかかるとき
たのしき恋の　盃を
君が情に酌みしかな

林檎　皇の樹の下に
⑤おのづからなる細道は
誰が踏みそめしかたみぞと
⑥問ひたまふこそこひしけれ

（教科書P.140～141／島崎藤村「初恋」）

(1) よくでる この詩の形式を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 口語定型詩　イ 文語定型詩
ウ 口語自由詩　エ 文語自由詩

(2) よくでる この詩の形式をリズムで表したものを次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 七五調　イ 五七調　ウ 七七調　エ 自由律

(3) ――線①「花ある君」の意味を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 花を持つ君　イ 花を髪にさした君
ウ 花のように美しい君　エ 花柄の着物が似合う君

(4) ――線②「やさしく白き手」とは、誰の手ですか。詩の中から書き抜きなさい。

(5) ――線③「薄紅の秋の実」について、次の問いに答えなさい。
Ⅰ 「薄紅の秋の実」と同じ意味の言葉を、詩の中から書き抜きなさい。
Ⅱ 「薄紅の秋の実」は、何を象徴しているか。次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 少女の純真な心　イ 青年の純真な心
ウ 少女の不安な心　エ 青年の不安な心

(6) よくでる ――線④「わがこころなきためいき」にはどのような気持ちが込められているか。次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 寂しさ　イ 不安　ウ 喜び　エ 心配

(7) ――線⑤「おのづからなる細道は／誰が踏みそめしかたみぞと」について、次の問いに答えなさい。
Ⅰ 「おのづからなる細道」とはどういう意味か、説明しなさい。
Ⅱ 「細道」は、誰が踏みかためたものか。書きなさい。

(8) ――線⑥「問ひたまふ」とあるが、主語は誰か。詩の中から書き抜きなさい。

1 各10点

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)		(6)	(7)		(8)
イ	ア	ウ	（花ある）君	Ⅰ 林檎	Ⅱ ア	ウ	Ⅰ ㈹自然とできた細い道。	Ⅱ ㈹「われ」と「君」。	（花ある）君

(1)(2) 「あげ初めし」「思ひけり」などの「文語」を用い、七五調の決まったリズムの「定型詩」である。
(6) 「こころなきためいき」とは、思わず出てしまったため息。同じ連に「たのしき恋の盃」とあることから、「君」を目の前にして幸福な気持ちでいることが読み取れる。
(7) 「おのづから」は「自然に」という意味。「われ」と「君」が何度も通ううちに自然にできた道ということ。
(8) 「こひしけれ」と思っているのは「われ」である。

22 和歌の世界／古今和歌集　仮名序

教科書 P.144～145・146～147　いにしえの心を受け継ぐ

学習した日　月　日

時間25分　/100点

1 次の各文章の（　）にあてはまる言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

(1) よくでる［万葉集］現存する日本（①）の歌集で、（②）時代末頃までにまとめられた。広い階層の人々の（③）で力強い歌が収められている。代表的な歌人は編纂に携わったとされる（④）、（⑤）や（⑥）などである。

(2) よくでる［古今和歌集］（①）時代初期、醍醐天皇の勅命によって作られた最初の（②）和歌集。表現に技巧を凝らした繊細で（③）な歌が多い。代表的な歌人は撰者でもある（④）、（⑤）や（⑥）などである。

(3) よくでる［新古今和歌集］（①）時代初期、（②）の命によって作られた和歌集。自然美や繊細な感情を（③）に表現している歌が多い。代表的な歌人は撰者でもある（④）、（⑤）や（⑥）などである。

ア 平安　イ 奈良　ウ 鎌倉　エ 最古
カ 勅撰　キ 素朴　ク 象徴的　ケ 藤原定家　コ 額田王　オ 優美
サ 後鳥羽上皇　シ 紀貫之　ス 大伴家持　セ 西行法師
ソ 柿本人麻呂　タ 小野小町　チ 藤原敏行　ツ 式子内親王

1 各3点（(1)～(3)の⑤⑥は順不同）

(1) ①	(1) ③	(1) ⑤	(2) ①	(2) ③	(2) ⑤	(3) ①	(3) ③	(3) ⑤
エ	キ	コ	ア	オ	タ	ウ	ク	セ
②	④	⑥	②	④	⑥	②	④	⑥
イ	ス	ソ	カ	シ	チ	サ	ケ	ツ

やまとうたは、人の心を種として、①よろづの言の葉とぞなれりける。世の中にある人、②ことわざ繁きものなれば、③心に思ふことを、見るもの、聞くものにつけて、④言ひ出せるなり。花に鳴く鶯、水にすむ蛙の声を聞けば、生きとし生けるもの、いづれか歌をよまざりける。⑤力をも入れずして、天地を動かし、目に見えぬ鬼神をも、［B］と思はせ、男女のなかをも和らげ、猛き武士の心をも、慰むるは歌なり。

やまとうたは、人の心を種として、（そこから芽生えて）種々さまざまの葉になったものだ。この世の中に生きている人々は、さまざまな出来事に関わっているので、心に思うことを、見るもの、聞くものに託して、言い表したのである。花の間に鳴く鶯、清流にすむ河鹿の声を聞くと、生きている全てのものの、どれが歌を［A］。力ひとつ入れずに天地の神々の心を動かし、目に見えないもろもろの精霊たちをしみじみとさせ、男女の仲を親しいものとし、勇猛な武人の心をも、和らげるのが歌なのである。

（教科書P.146～147／「古今和歌集　仮名序」）

(1) ――線①「よろづ」、③「思ふ」、④「言ひ出せる」を現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。

(2) ――線②「ことわざ繁きものなれば」の口語訳を書き抜きなさい。

(3) ――線⑤「よまざりける」の口語訳として［A］に入るものを次の中から選び、記号で答えなさい。
ア 詠むといえるだろうか　イ 詠むのをやめるだろう
ウ 詠まないといえるだろうか　エ 詠まないはずである

(4) ［B］に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。
ア あはれ　イ きよら　ウ わろし　エ うつくし

2 (1)各7点、(2)9点、他各8点

(1) ①	(1) ③	(1) ④	(2)	(3)	(4)
よろず	おもう	いいだせる	さまざまな出来事に関わっているので	ウ	ア

(1) 「づ」は「ず」に、語頭以外のハ行はワ行に直す。
(3) 「ざり」は打ち消しの助動詞「ず」の連用形。前にある「いづれか」の「か」は反語の係助詞。「歌を詠む」ということを強調した表現である。
(4) 口語訳の「しみじみ」に対応する言葉を探す。しみじみとした感動を表す言葉は「あはれ」である。

23

教科書 P.148～153

いにしえの心を受け継ぐ

君待つと——万葉・古今・新古今

学習した日　月　日

光村 国語中3

時間25分　100点

1 次の和歌を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔万葉集〕

A ①春過ぎて夏来るらし白たへの②衣干したり天の香具山　持統天皇

B 東の野に炎の立つ見えてかへり見すれば月傾きぬ　柿本人麻呂

C 憶良らは今は罷らむ子泣くらむそれ②その母も③我を待つらむそ　山上憶良

D 父母が④頭かき撫で幸くあれて言ひし言葉ぜ忘れかねつる　［　］

〔古今和歌集〕

E 人はいさ心も知らずふるさとは花ぞ昔の香ににほひける　紀貫之

F 思ひつつ寝ればや人の見えつらむ④夢と知りせば覚めざらましを　小野小町

〔新古今和歌集〕

G 見わたせば花も紅葉もなかりけり浦の苫屋の秋の夕暮　藤原定家

H ⑤玉の緒よ絶えなば絶えねながらへば忍ぶることの弱りもぞする　式子内親王

（教科書P.148～152／「君待つと——万葉・古今・新古今」）

(1) ⓐ・ⓑの漢字をひらがなに直しなさい。

(2) ——線①「春過ぎて夏来るらし」を助詞を補って口語訳しなさい。

(3) Bの和歌が詠まれたのは、「朝」「昼」「夜」のうちいつか、答えなさい。

(4) ——線②「その」、③「我」はそれぞれ誰を指しているか。Cの和歌の中から書き抜きなさい。

(5) Dの和歌は、九州地方の守備のために集められた兵士の歌だが、その兵士や家族が詠んだ歌を何というか答えなさい。

(6) Eの和歌の中で「(人の)心」と対比して用いられているものは何か。和歌の中から一字で書き抜きなさい。

(7) ——線④「夢と知りせば」を口語訳しなさい。

(8) Gの和歌を詠んだときの作者の心情を表す言葉として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 喜び　イ あせり　ウ 寂しさ　エ いらだち

(9) ——線⑤「玉の緒」のここでの意味を漢字一字で答えなさい。

(10) A・Gの和歌に共通する表現技法を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 反復　イ 体言止め　ウ 比喩　エ 対句

1 (1)(4)各5点、他各10点

(1)	ⓐ ころも　ⓑ かしら	(2)	(例)春が過ぎて夏が来たらしい	(3)	朝	(4)	② 子　③ 憶良(ら)	(5)	防人歌
(6)	香(花)	(7)	(例)夢とわかっていたならば	(8)	ウ	(9)	命	(10)	イ

(3) ここでの「炎」は「あけぼのの光」。「月傾きぬ」とあることから「朝」だとわかる。

(4) 「その」は「子」、「我」は「私」(＝憶良ら)のことである。

(5) 「防人歌」は防人やその家族が離別の悲しみを詠んだ歌。

(6) 「(人の)心」はどう変わってしまったかわからないが、なつかしい土地の花は昔のままに香っていると詠んでいる。

(7) 「知りせば」は「わかっていたならば」と訳す。

(8) 作者が粗末な小屋で、花も紅葉もない秋の夕暮れを眺めていることをおさえる。

(9) 命が絶えるのならば絶えてしまえと詠んでいる。

(10) 歌の最後が「香具山」「夕暮」と体言になっている。

24

教科書 P.154～161

いにしえの心を受け継ぐ

夏草——「おくのほそ道」から①

学習した日　月　日

光村 国語中3

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

月日は百代の①過客にして、行きかふ年もまた旅人なり。舟の上に生涯を浮かべ、馬の口②とらへて老いを迎ふる者は、③日々旅にして旅をすみかとす。古人も多く旅に死せるあり。予も④いづれの年よりか、片雲の風にさそはれて、⑤漂泊の思ひやまず、海浜にさすらへて、去年の秋、江上の破屋に蜘蛛の古巣をはらひて、⑥やや年も暮れ、春⑦立てる霞の空に、白河の関越えむと、そぞろ神の物につきて心をくるはせ、道祖神の招きにあひて、取るもの手につかず、⑧股引の破れをつづり、笠の緒付けかへて、三里に灸すゆるより、松島の月まづ心にかかりて、住めるかたは人に譲りて、杉風が別墅に移るに、

草の戸も住み替はる代ぞ雛の家
面八句を庵の柱に懸け置く。

（教科書P.154～155／松尾芭蕉「夏草——「おくのほそ道」から」）

月日は永遠に旅を続けるのようなものであり、過ぎ去っては新しくやって来る年もまた旅人に似ている。一生を舟の上で暮らす船頭や、馬のくつわを取って老年を迎える馬子などは、毎日毎日が旅であって、旅そのものを自分のすみかとしている。（風雅の道に生涯をささげた）昔の人々の中にも、旅の途中で死んだ人が多い。私もいつの頃からか、ちぎれ雲のように風に誘われて、あてのない旅に出たい気持ちが動いてやまず、（近年はあちこちの）海岸をさすらい歩き、去年の秋、隅田川のほとりのあばらやに（帰り）、蜘蛛の古巣を払って（中略）

草の戸も住み替はる代ぞ雛の家
（現代語訳略）
面八句を、（門出の記念に）庵の柱に掛けておいた。

(1) よんでみよう ——線①「過客」と同じ意味を表す言葉を、古文の中から二字で書き抜きなさい。

(2) ——線②「とらへて」、④「いづれ」、⑥「はらひて」を現代仮名遣いに直してすべてひらがなで答えなさい。

(3) ——線③「日々旅にして旅をすみかとす」とあるが、そうする者として挙げられている例を、下段の口語訳の中から二つ書き抜きなさい。

(4) よんでみよう ——線⑤「漂泊の思ひやまず」の口語訳を書き抜きなさい。

(5) ——線⑦「やや」の口語訳として適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 少し　イ とうとう　ウ 速やかに　エ しだいに

(6) ——線⑧「立てる」は「掛詞」だが、「立てる」には何と何の意味が掛けられているか。それぞれ書きなさい。

(7) ——線⑨「股引の……灸すゆる」といった行動は何のためのものか、書きなさい。

(8) よんでみよう 「草の戸も……」の俳句について、次の問いに答えなさい。

① この俳句の季語と季節をそれぞれ一字で答えなさい。

② この俳句に詠まれているものとして最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 春を迎えても変わることのない「雛の家」のわびしさ。

イ 「雛の家」を去ることになったもとの主の寂しさ。

ウ 住人が替わり、春を迎えた「雛の家」の華やかさ。

1 (2)(5)各5点、他各8点　(3)(6)順不同

(1)	旅人	(2)	② とらえて　④ いずれ　⑥ はらいて	(3)	・船頭　・馬子	(4)	あてのない旅に出たい気持ちが動いてやまず	(5)	エ	(6)	・(例)春が立つ　・(例)霞が立ちこめる	(7)	(例)旅に出るためのもの。	(8)	① 季語：雛　季節：春　② ウ

(1) 「過客」は「通り過ぎていく人」。よって「旅人」が同義。

(3) 「舟の上に生涯を浮かべ」る船頭、「馬の口とらへて老いを迎ふる」馬子を例に挙げている。

(4) 「漂泊」はさすらうこと。前後の文脈から、該当する箇所を抜き出す。

(6) 「掛詞」は同音異義を利用した表現技法。

(7) すべて旅に出るための支度である。

(8)① 「雛」は春の季語である。

② わびしい草庵が、住む人が替わって雛人形を飾るにぎやかな家になったということが詠まれている。

25

教科書 P.154〜161

いにしえの心を受け継ぐ

夏草——「おくのほそ道」から②

学習した日　月　日

光村 国語中3

時間25分　/100点

1 次の古文を読んで、あとの問いに答えなさい。

①三代の栄耀一睡のうちにして、大門の跡は一里こなたにあり。秀衡が跡は田野になりて、金鶏山のみ形を残す。ⓐまづ、高館に登れば、北上川南部より流るる大河なり。衣川は、和泉が城をめぐりて、高館の下にて大河に落ち入る。泰衡らが旧跡は、②衣が関を隔てて南部口をさし固め、夷を防ぐと見えたり。さても③義臣すぐつてこの城に籠もり、功名一時の草むらとなる。「国破れて山河あり、城春にして草青みたり」と笠打ち敷きて、時のうつるまで④涙を落としはべりぬ。

A　夏草や兵どもが夢の跡

B　卯の花に兼房見ゆる白毛かな　　曾良

かねて耳驚かしたる二堂開帳す。ⓑ経堂は三将の像を残し、光堂は三代の棺を納め、三尊の仏を安置す。七宝散り失せて、玉の扉風に破れ、金の柱霜雪に朽ちて、既に頽廃空虚の草むらとなるべきを、四面新たに囲みて、ⓒ甍を覆ひて風雨を凌ぎ、しばらく⑤千歳の記念とはなれり。

C　五月雨の降り残してや光堂

（教科書P.158〜159／松尾芭蕉「夏草——「おくのほそ道」から」）

(1) ——線ⓐ「まづ」、ⓑ「経堂」、ⓒ「霜雪」を現代仮名遣いに直してすべてひらがなで答えなさい。

(2) よくでる ——線①「三代の栄耀一睡のうちにして」の意味として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　藤原清衡、基衡、秀衡の三代にわたった栄華はたちまち現れて

イ　藤原清衡、基衡、秀衡の三代にわたった栄華はははかなく消え果て

ウ　藤原清衡、基衡、秀衡の三代にわたった栄華は今もなお続いて

(3) ——線②「義臣」とは、源義経の臣下を指すが、その一人とされる人物名を古文の中から二字で書き抜きなさい。

(4) ——線③「国破れて……青みたり」について、次の問いに答えなさい。

① この一節のもとになった「春望」という漢詩の作者名を漢字で答えなさい。

② 同じ意味を表す言葉を、古文の中から十一字で書き抜きなさい。

(5) よくでる ——線④「涙を落としはべりぬ」とあるが、芭蕉が涙を落とした理由として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　独りで生きなければならない人間の孤独さが身にしみたから。

イ　主君に対する臣下の絶対的な忠誠心に感動したから。

ウ　人間の存在と営みのはかなさに感じ入ったから。

(6) ——線⑤「千歳の記念」が指すものを、古文の中から二字で書き抜きなさい。

(7) よくでる 俳句A〜Cについて、次の問いに答えなさい。

① それぞれについて、季語、季節、切れ字を答えなさい。季節は一字で答えること。

② Bの非句で、「卯の花」に「白毛」を連想した理由を説明しなさい。

1 (1)(7)①各4点、(7)②10点、他各7点

(1)	ⓐ	まず
	ⓑ	きょうどう
	ⓒ	そうせつ
(2)		ア
(3)		兼房
(4)	①	杜甫
	②	功名一時の草むらとなる
(5)		ウ
(6)		光堂
(7) ①	A 季語	夏草
	A 季節	夏
	A 切れ字	や
	B 季語	卯の花
	B 季節	夏
	B 切れ字	かな
	C 季語	五月雨
	C 季節	夏
	C 切れ字	や
(7) ②		(例)卯の花が白いから。

(1) 「づ」は「ず」に直す。「一睡」とは、ひと眠りすること。短い時間ということから、はかなさを意味する。

(4) 「国破れて……青みたり」は、人間の営為のはかなさを意味している。

(5) 直前の文の内容や、直後の俳句Aの内容から考える。

26

教科書 P.166〜171

価値を生み出す

誰かの代わりに①

学習した日　月　日

光村 国語中3

時間25分　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

「自分とは何か」という問いは、哲学者や思想家などによって、昔から繰り返されてきました。[A]、①今は、この「自分とは何か」を、哲学者や思想家だけでなく、十代の若者から中高年まで、世代を超えて、誰もが問わずにいられない時代であると思います。

その理由として、今の社会が、これまでの時代に比べ、個人により大きな自由が②保障される社会であるからだということができるでしょう。自分の意志で自分の人生を選び取っていくことを理想とする社会。③何にでもなれる可能性のある社会。昔の封建制の下でのように、個人の自由が厳しく制限されていた社会よりも、ずっと居心地のよい社会だといえそうです。しかし、④ここには自由があるからこそのしんどさがついて回ります。

何にでもなれる社会。これを裏返していえば、その人の存在価値は、その人が人生において何を成し遂げたか、どんな価値を生み出したかで測られるようになる、ということでもあります。「何をしてきたか」「何ができるか」で人の価値を測る社会。そこでは、人は絶えず「あなたには何ができますか。」「あなたにしかできないことは何ですか。」と他から問われ、同時に、「私には、他の人にはないどんな能力や才能があるのだろう。」と自分自身にも問わなければならないことになります。「あなたの⑤代わりはいくらでもいる。」「ここにいるのは、別にあなたでなくていい。」と言われることがないように、自分が代わりのきかない存在であることを、自分で証明しなければならないのです。こうした状況は、先ほどの「[B]」という問いを、「こんな私でも、ここにいていいのだろうか。」という、なんとも切ない問いへと変えてしまうことがあります。

（教科書P.166〜167／鷲田清一「誰かの代わりに」）

(1) [A]に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　例えば　イ　しかし　ウ　つまり　エ　あるいは

(2) ——線①「今は、この……時代である」と言えるのはなぜか。その理由を文章中から四十字で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

(3) ——線②「保障」の意味を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア　守る　イ　勧める　ウ　償う　エ　請け合う

(4) ——線③「何にでもなれる可能性のある社会」と対照的な言葉を、文章中から書き抜きなさい。

(5) よくでる ——線④「ここには……回ります」について、次の問いに答えなさい。

Ⅰ　「ここ」の指示内容を、文章中から九字で書き抜きなさい。

Ⅱ　「しんどさ」とは何か。それを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

その人の（①四字）が、その人が人生において（②八字）、どんな価値を生み出したかで（③四字）こと。

(6) ——線⑤「代わりはいくらでもいる」と対照的な言葉を、文章中から八字で書き抜きなさい。

(7) よくでる [B]に入る言葉を、文章中から六字で書き抜きなさい。

1 各10点（(2)完答）

(1)		イ
(2)	初め	今の社会が
	終わり	であるから
(3)		ア
(4)		個人の自由が厳しく制限されていた社会
(5) Ⅰ		何にでもなれる社会
(5) Ⅱ	①	存在価値
	②	何を成し遂げたか
	③	測られる
(6)		代わりのきかない
(7)		自分とは何か

(1) 直後の「その理由として」以降に注目する。

(3) 「保障」「補償」など同音異義語との違いをおさえておく。

(4) 直後に「昔の封建制……制限されていた社会」とある。

(5) Ⅱ 次の段落の「何にでもなれる社会。これを裏返していえば……」以降に着目する。

(6) 「あなたにしかできない」なども対照的な言葉といえるが、指定の字数に合うものを書き抜く。

27

教科書 P.166～171　光村 国語中3

価値を生み出す

誰かの代わりに②

学習した日　　月　　日

時間25分　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人には、そして人の集まりには、いろいろな苦労や困難があります。それらをⓐサけたい、ⓑ免除されたいという思いが働くのも無理はありません。けれども、免除されるということは、誰か他の人に、[A]社会のある仕組みに、それとのⓒカクトウをお任せするということであって、そのことが、人を受け身で無力な存在にしてしまいます。

これに対して、私は「人生には超えてはならない、ⓓ克服してはならない[B]がある。」と書いた一人の神学者の言葉を思い出します。苦労を苦労と思わなくなる、のではありません。苦労を苦労としてそのまま引き受けることの中にこそ、人として生きることの意味が埋もれていると考えるのです。苦労はしばしば、独りで背負い切れるほど小さなものではありません。人と支え合うこと、人と応じ合うことがどうしても必要になります。冒頭に挙げた、「自分とは何か」という自分が存在することの意味への問いについても、自分の中ばかりを見ていては②その答えを探し出すことはできません。その答えは、他の人たちとの関わりの中でこそ、具体的に浮かび上がってくるものだからです。

他の人たちと関わり合い、弱さを補い合うからこそ、人は倒れずにいられます。そして、自分が存在することの意味を感じながら生きることができます。「誰かの代わりに」という思いが、余力のあるときに、というのではなく、常に求められるものであることの理由は、ここにあります。

最後に、私が十代の頃から愛読してきたパスカルという思想家の著書、「パンセ」の中の言葉を紹介しましょう。

「人間の弱さは、それを知っている人たちよりは、それを知らない人たちにおいて、ずっとよく現れている。」

今の社会を生きる私たちにとって、繰り返し味わうべき言葉だと思います。

（教科書P.169～170／鷲田清一「誰かの代わりに」）

(1) ═線ⓐ～ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ═線ⓑ「免除」と同じ意味の言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 吐露　イ 吸収　ウ 放免　エ 除去

(3) ──線①「いろいろな苦労や困難」を引き受けないとき、人にはどのような問題が起こりうるか。それを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から書き抜きなさい。

苦労や困難を引き受けないことによって、人は（　　）になる。

(4) [A]に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア しかし　イ ただし　ウ あるいは　エ つまり

(5) [B]に入る言葉を、文章中から書き抜きなさい。

(6) よくでる 筆者は、人が「苦労」と向き合うときに何が必要だと述べているか。文章中から十七字で書き抜きなさい。（読点を含む）

(7) よくでる ──線②「その答えを探し出すことはできません」とあるが、それはなぜか。「自分」「他の人たちとの関わり」という言葉を使って説明しなさい。

1 (1)各5点、(6)(7)20点、他各10点

(1)	ⓐ 避	ⓑ めんじょ	ⓒ 格闘	ⓓ こくふく		
(2)	ウ					
(3)	受け身で無力な存在					
(4)	ウ					
(5)	苦労					
(6)	人と支え合うこと、人と応じ合うこと					
(7)	(例)他の人たちとの関わりの中でこそ、自分が存在することの意味が具体的に浮かび上がってくるから。					

(1) 第一段落の最後に、人が「受け身で無力な存在」になってしまうことが書かれている。

(6) 第二段落の「苦労は……独りで背負い切れるほど小さなものではありません」のあとに、苦労と向き合うときに何が必要かが挙げられている。

(7) ──線②の前後に、「他の人たちとの関わり」の中で、「自分が存在することの意味」が浮かび上がってくると書かれている。

28

教科書 P.174～175・176・177・215～218　光村 国語中3

価値を生み出す

漢字3 漢字のまとめ／漢字に親しもう5／文法への扉2 「ない」の違いがわからない？

学習した日　　月　　日

時間25分　/100点

1 次の各問いに答えなさい。

(1) 次の□に入る同じ音読みの漢字をそれぞれ答えなさい。

① ア □色に焼けた肌。　イ 拍手□采を浴びる。

② ア 弾□演説を行う。　イ □当欄に丸をつける。

(2) 次の熟語を読み、──線の漢字に共通する音をひらがなで答えなさい。

① 紙幣・弊害・弊社

② 醸造・土壌・譲渡

(3) 次の──線は同じ部首の漢字である。それぞれの熟語の読みをひらがなで答えなさい。

① 〈言〉ア 詐欺　イ 所詮

② 〈木〉ア 桁数　イ 梗概

2 次の各問いに答えなさい。

(1) 次の熟語を読み、音訓の組み合わせをあとから選び、記号で答えなさい。

① 邦人　② 建坪

ア 音＋音　イ 訓＋訓　ウ 音＋訓　エ 訓＋音

(2) 次の──線は〈土〉が部首の漢字である。それぞれの熟語の読みをひらがなで答えなさい。

① 堕落　② 墜落　③ 塑像

3 よくでる 次の各文の「ない」と文法上同じものをすべて選び、記号で答えなさい。

(1) 読む本がない。

(2) 急に飛び出したら危ない。

(3) 私は行かない。

ア 切ない物語を読む。　イ 誰もいない。

ウ 五分しかない。　エ 考えても仕方ない。

オ もう歩けない。　カ 見たことがない。

1 各5点

(1)	① ア 褐	② ア 効			
	① イ 喝	② イ 該			
(2)	① へい	② じょう			
(3)	① ア さぎ	① イ しょせん	② ア けたすう	② イ こうがい	

(3) ②イ「梗概」は、あらすじのこと。

2 各5点

(1)	① 読み ほうじん	② 読み たてつぼ	
	記号 ア	記号 イ	
(2)	① だらく	② ついらく	③ そぞう

(1) ①「邦人」の「邦」には「く」に、「人」には「ひと」の訓読みがある。

3 各5点（それぞれ完答）

(1)	ウ、カ	
(2)	ア、エ	
(3)	イ、オ	

(1)は形容詞の「ない」、(2)は形容詞「危ない」の一部、(3)は打ち消しの助動詞。

29

教科書 P.178～187

読書に親しむ

本は世界への扉　エルサルバドルの少女 ヘスース

学習した日　　月　　日

光村 国語中3

時間25分　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

四年後の秋、私は二人の結婚式に招かれた。式が遅くなったのは、結婚費用がたまるまで時間がかかったからだ。晴れの日の会場は、二人がローンで買った共同住宅の一角。一間だけの会場には、たくさんの友人や親類が集まった。純白のウエディングドレスを着たヘスースは□でいっぱいで、参列者からの祝福の言葉に、本当に幸せそうだ。

式が終わった翌日、私はこれから新しい生活を始める二人に、今まで聞いてみたかったことを質問することにした。①「どうしていつも笑顔だったの？」と切り出すと、ヘスースは「おじいちゃん、おばあちゃんが、さまざまな日雇いの仕事をして養ってくれた。キャンプの人にも本当に助けられた。だから、周りのみんながいい気持ちでいてくれるように、笑顔でいたかったの。」とほほえんだ。

②「キャンプでの生活はつらかったよね？」と言うと、「大好きなチキンを食べられるのは年に一回、クリスマスのとき。やっと料理ができあがったときに、ドアを誰かがノックして、それが私たちより困っている人だとわかると、おばあちゃんが料理を全部あげてしまったことがあった。まだ幼かった私は、食べることが好きだったから、そんなときはつらく感じたわ。」とヘスースは言った。でも、彼女はそんなおばあちゃんの生き方から学んだことも多かったようだ。キャンプで身寄りのない人が死んだとき、みんなからカンパを集め、黒塗りの立派なひつぎを購入して死者を送り出したのは、ヘスースだった。キャンプの人々は、そうやって助け合って生きてきたのだろう。

彼女は「友達の中には、スラムのようなキャンプで暮らしていることが恥ずかしいと思って、人に言えない子もいるけれど、私はここで育ったことに誇りをもっている。キャンプは、子ども時代の思い出がいっぱい詰まった③『人生の宝箱』のようなものだから。」と続けた。私はその言葉に胸がいっぱいになった。ヘスースは、④自分の人生をたった一つのかけがえのない大切なものとして生きてきた。⑤彼女の笑顔は、そのあかしでもあったのだ。

（教科書P.182～185／長倉洋海「エルサルバドルの少女 ヘスース」）

1 (1)(6)①各5点、(3)(4)(6)②各20点、他各10点（(5)完答）

(1) 笑顔

(2) ① キャンプの人　② いい気持ち

(3) ㈹大好きなチキンを、おばあちゃんが困っている人に全部あげてしまって食べられなかったこと。

(4) ㈹キャンプで身寄りのない人が死んだとき、みんなからカンパを集めてひつぎを購入し、死者を送り出した。

(5) 初め たった一つ　終わり 大切なもの

(6) ① エ　② ㈹ヘスースが、自分の人生をたった一つのかけがえのない大切なものとして生きてきたこと。

(1) 直後に「本当に幸せそうだ」とあり、次の段落で「笑顔」という言葉が使われている。

(2)(3) ヘスースの言葉から、彼女がどのような境遇で育ったのかをおさえる。

(5) ヘスースは自分が育ったキャンプを「宝箱」と述べている。それについて、筆者があとで言い換えている部分から読み取る。

(1) □に入る言葉を、文章中から二字で書き抜きなさい。

(2) よんでみる ――線①「どうしていつも笑顔だったの？」とあるが、ヘスースはなぜ笑顔でいたのか。それを説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を、文章中から指定の字数で書き抜きなさい。

養ってくれた家族や助けてくれた（①六字）に（②五字）でいてほしかったから。

(3) ――線②「キャンプでの生活はつらかったよね？」とあるが、ヘスースは何がつらかったと答えたか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

(4) ――線③「おばあちゃんの……学んだこと」とあるが、具体的にヘスースはどのようなことをしたのか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

(5) ――線④「人生の宝箱」に近い意味の言葉を文章中から十八字で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

(6) よんでみる ――線⑤「彼女の……あったのだ」について、次の問いに答えなさい。

① 「あかし」の意味を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 原因　イ 結果　ウ 目標　エ 証明

② 可の「あかし」だというのか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

30

教科書 P.188～190

読書に親しむ

本は世界への扉　紛争地の看護師

学習した日　　月　　日

光村 国語中3

時間25分　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

海の向こう側には、私たちが目をⓐオオい、耳を塞ぎたくなるような現実がある。国境なき医師団に参加し始めた二〇一〇年以来、①戦争の被害によって命の危機にさらされている人々を、何度も目にしてきた。

戦地では、病院がⓑハカイされていたり、被害者と医療をつなぐアクセスが断たれてしまったりしていることが多い。危険が大きい場所ほど、たった一人の医師、一人の看護師、一つの病院の存在価値が高い。

戦地で親を殺されて泣いている子供たち。足を失って絶望に打ちひしがれている青年たち。そして家族を養うすべを失った一家の大黒柱である、大の男たちが怒りを秘め、泣いている。

行けば自分も危険にさらされるかもしれない。②活動中の生活環境は厳しく、戦時下での医療がスムーズに行えるとも限らない。

苦しんでいる人たちがたくさんいるのに医療すら自由にⓒ施せない戦争とは本当に残酷なものである。

「なにもあなたが行くことはない。」

「日本でだって救える命はある。」

では、誰が彼らの命を救うのだろう。

彼らの悲しみと怒りに、誰が注目するのだろう。

医療に国境はない。私は本当にそう思っている。七歳の頃に「国境なき医師団」を初めて知ったときも、実際に活動を始めて八年が経過した今も③その思いは変わらない。

国、国籍、人種を超えた、同じ人間としての思い。報道にもならない場所で、医療を求めて（または医療が届かずに）泣いている人々の痛みや苦しみを見過ごすことは、□私にはできない。

（教科書P.189～190／白川優子「紛争地の看護師」）

1 (1)各5点、(2)(6)20点（(2)完答）、他各10点

(1) ⓐ 覆　ⓑ 破壊　ⓒ ほどこ　ⓓ ざんこく

(2) 初め 苦しんでいる　終わり のである

(3) Ⅰ 国境なき医師団　Ⅱ 八年

(4) 医療に国境はない

(5) ア

(6) ㈹戦地で苦しんでいる人たちを見過ごせないと感じて、彼らの命を救う活動をしたいと考えているから。

(4) 「その思い」が指すのは、前に書かれた「そう思っている」の「そう」が指す部分と同じである。

(6) 文章の中から、戦地で苦しんでいる人たちを見過ごせない、彼らの命を救いたいという筆者の思いをまとめる。

(1) ――線ⓐ～ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ――線①「戦争」に対する筆者の気持ちが書かれている一文を文章中から抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。（句点を含む）

(3) ――線②「活動」について、Ⅰ「筆者は何の活動に参加しているか」、Ⅱ「どれぐらいの期間活動しているか」を、文章中から書き抜きなさい。

(4) よんでみる ――線③「その思い」とはどんな思いか。文章中から八字で書き抜きなさい。

(5) □に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア やはり　イ あるいは　ウ めったに

エ それとも　オ ぜひ

(6) よんでみる 筆者が紛争地で活動する理由について、文章中の言葉を使って説明しなさい。

31 未来へ向かって 温かいスープ

教科書 P.196〜199　光村 国語中3

学習した日　月　日

時間25分　/100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

筆者は、毎土曜日の夕食を、母と娘で切り盛りする小さな手作りの料理店で取るようになる。月給が安く、月末になると金詰まり状態になる筆者は、月末の土曜の夜になると値の張らないオムレツだけを注文するようにしていた。

私は例によって無理に明るい顔をしてオムレツだけを注文して、待つ間、本を読み始めた。店には二組の客があったが、それぞれ大きな温かそうな肉料理を食べていた。そのときである。背のやや曲がったお母さんのほうが、湯気の立つスープを持って私のテーブルに近寄り、震える手でそれを差し出しながら、小声で、「お客様の注文を取り違えて、余ってしまいました。よろしかったら召しあがってくださいませんか。」と言い、優しい③ヒトミでこちらを見ている。小さな店だから、今、①お客の注文を間違えたのではないことぐらい、私にはよくわかる。

□、目の前に、どっしりしたオニオングラタンのスープが置かれた。寒くてひもじかった私に、それはどんなにありがたかったことか。涙がスープの中に落ちるのを②気取られぬよう、一さじ一さじかむようにして味わった。フランスでもつらいめに遭ったことはあるが、この人たちの③さりげない親切のゆえに、私がフランスを嫌いになることはないだろう。いや、そればかりではない、人類に絶望することはないと思う。

④国際性、国際性とやかましく言われているが、その基本は、流れるような外国語の能力やきらびやかな学芸の才気や事業のスケールの大きさなのではない。それは、相手の立場を思いやる優しさ、お互いが人類の仲間であるという自覚なのである。その典型になるのが、名もない行きずりの外国人の私に、口ごもり恥じらいながら示してくれたあの人たちの⑤無償の愛である。求めるところのない隣人愛としての人類愛、これこそが国際性の基調である。そうであるとすれば、一人一人の平凡な日常の中で、それは試されているのだ。

（教科書P.198〜199／今道友信「温かいスープ」）

(1) ⓐ・ⓑの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ——線①「お客の注文を間違えたのではない」のに、「お母さん」がそのように話したのはなぜか、考えて書きなさい。

(3) □に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア あるいは　イ そもそも　ウ なぜ　エ こうして

(4) ——線②「気取られぬ」をほぼ同じ意味の言葉に言い換えて五字で書きなさい。

(5) ——線③「さりげない親切」を別の言葉で表現した部分を文章中から四字で書き抜きなさい。

(6) よくでる 筆者は——線④「国際性」の基本は何だと述べているか。文章中から三十一字で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

(7) よくでる 筆者がこの文章を通して述べている主旨を、「国際性」「日常」という言葉を使って説明しなさい。

1 (1)各5点、(2)(7)20点、(5)(6)15点、(6)完答、他各10点

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6) 初め	(6) 終わり	(7)
ⓐ 瞳 ⓑ むしょう	(例)間違えたことにすれば、遠慮せずに食べてもらえるのではないかと思ったから。	エ	(例)気付かれぬ	無償の愛	相手の立場	という自覚	(例)国際性の基調となるのは無償の隣人愛としての人類愛であり、私たち一人一人の平凡な日常の中で試される。

(2) 「この料理は間違ってつくったもので、このままだと無駄になってしまう」と伝えることで、筆者が負担を感じることなく受け入れてくれると期待したのである。

(6) 最後の段落に国際性の「基本」は何かが述べられている。

(7) 筆者の主張として、「国際性」が「日常」とどうかかわるかをまとめよう。

32 未来へ向かって わたしを束ねないで／漢字に親しもう6

教科書 P.200〜203・208　光村 国語中3

学習した日　月　日

時間25分　/100点

1 教科書の「わたしを束ねないで」を読んで、あとの問いに答えなさい。

(1) よくでる 「わたしを止めないで」（教科書201ページ1行目）という表現には作者のどんな思いが込められているか。次の文の（　）にあてはまる言葉をあとから選び、記号で答えなさい。

（　　）でありたいという思い。

ア 公正　イ 冷静　ウ 自由　エ 孤独

(2) 「日常性に薄められた牛乳」（教科書201ページ8行目）と対比して用いられている言葉を次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア ぬるい酒　イ 夜　ウ 苦い潮　エ ふちのない水

(3) 「わたしを区切らないで」（教科書202ページ7行目）という表現には作者のどんな思いが込められているか。二十字以内で説明しなさい。（句点を含む）

(4) よくでる 「終りのない文章」（教科書202ページ10行目）と同じ意味で用いられている言葉を、詩の中から四字で書き抜きなさい。

2 次の——線の熟語をあとから選んで書きなさい。

① カクシン的な技術を開発する。
② 成功をカクシンする。
③ カクシンをついた質問をする。
④ 人事イドウを発表する。
⑤ 机を窓際にイドウする。

［革新　核心　確信］　［移動　異動　異同］

1 (3)20点、他各10点、(2)順不同・完答

(1)	(2)	(3)	(4)
ウ	ウ、エ	(例)無限に広がる存在であり たいという思い。	一行の詩

(1) 「牛乳」「酒」は容器に入っているもの。それと対比して、果てしない広がりをもつ「苦い潮」「ふちのない水」が用いられている。

2 各10点

①	②	③	④	⑤
革新	確信	核心	異動	移動

33 高瀬舟①

教科書 P.246～258　学習を広げる

光村 国語中3

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

庄兵衛はいかにケダを違えて考えてみても、ここに彼と我との間に、大いなる懸隔のあることを知った。自分の扶持米で立ててゆく暮らしは、おりおり足らぬことがあるにしても、たいていⓒ出納が合っている。手いっぱいの生活である。しかるに、そこに満足を覚えたことはほとんどない。常は幸いとも不幸とも感ずずに過ごしている。しかし心の奥には、こうして暮らしていて、ふいとお役が御免になったらどうしよう、大病にでもなったらどうしようという疑懼が潜んでいて、おりおり妻が里方から金を取り出してきて穴埋めをしたことなどがわかると、①この疑懼が意識の閾の上に頭をもたげてくるのである。

□この懸隔はどうして生じてくるだろう。ただうわべだけを見て、それは喜助には身に係累がないのに、こっちにはあるからだといってしまえばそれまでである。しかしそれはうそである。③よしや自分が独り者であったとしても、どうも④喜助のような心持ちにはなられそうにない。（中略）

庄兵衛はただバクゼンと、人の一生というようなことを思ってみた。人は身に病があると、この病がなかったらと思う。その日その日の食がないと、食ってゆかれたらと思う。万一のときに備える蓄えがないと、少しでも蓄えがあったらと思う。蓄えがあっても、また、その蓄えがもっと多かったらと思う。かくのごとくに先から先へと考えてみれば、人はどこまで行って⑤踏み止まることができるものやらわからない。それを今、目の前で踏み止まって見せてくれるのがこの喜助だと、庄兵衛は気がついた。

（教科書P.251～252／森鷗外「高瀬舟」）

(1) ⓐ～ⓓの漢字はひらがなに、カタカナは漢字に直しなさい。

(2) ――線①「この疑懼」が指す内容を文章中から四十九字を抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

(3) ――線②「意識の閾の上に頭をもたげてくる」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 無意識だったことを意識し始めるということ。
イ 意識せずに口にしてしまうということ。
ウ 意識しないように努めるということ。

(4) □に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア たとえ　イ きっと　ウ いったい　エ たぶん

(5) ――線③「よしや」と同じ意味の言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア もちろん　イ まして　ウ さらに　エ たとえ

(6) ――線④「喜助のような心持ち」とあるが、自分の置かれている状況に満足している喜助とは対照的な、世の人の心持ちが説明されている部分を、「～という心持ち。」に続く形で文章中から抜き出し、初めと終わりの八字を答えなさい。

(7) ――線⑤「踏み止まる」とはどういうことか。「状況」「満足」という言葉を使って説明しなさい。

1 (1)各5点、(6)(7)20点(6)完答、他各10点（(2)完答）

(1)		(2) 初め	(2) 終わり	(3)	(4)	(5)	(6) 初め	(6) 終わり	(7)
ⓐ 桁	ⓒ すいとう	こう	と	ア	ウ	エ	人は身に病があるから	多かったら	(例)自分の置かれている状況に満足すること。
ⓑ けんかく	ⓓ 漢然	して暮	いう疑懼					と思う	という心持ち。

(6) あとの「人の一生」とある部分に注目。喜助は自分の置かれている状況に満足している。それとは逆に、人は望みがかなっても次々に新たなことを望むというのである。

(7) 前の部分では、人の望みや欲望にきりがないことが書かれている。それを望まないようにすることを言っているのである。

34 高瀬舟②

教科書 P.246～258　学習を広げる

光村 国語中3

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

〔庄兵衛が尋ねると、喜助は弟を殺した訳を小声で話し始めた。〕

「『すまない。どうぞ堪忍してくれ。どうせ治りそうにもない病気だから、早く死んで少しでも兄貴に楽がさせたいと思ったのだ。*笛を切ったらすぐ死ねるだろうと思ったが、息がそこからモれるだけで死ねない。深く深くと思って力いっぱい押し込むと、横へ滑ってしまった。刃はこぼれはしなかったようだ。これをうまく抜いてくれたらおれは死ねるだろうと思っている。ものを言うのが切なくっていけない。どうぞ手を貸して抜いてくれ。』と言うのでございます。（中略）弟の目は『早くしろ、早くしろ。』と言って、さも恨めしそうに私を見ています。私の頭の中では、なんだかこう車の輪のような物がぐるぐる回っているようでございましたが、弟の目は恐ろしい催促をやめません。それに、その目の恨めしそうなのがだんだん険しくなってきて、とうとうカタキの顔をでもにらむような、憎々しい目になってしまいます。それを見ていて、私はとうとう、これは弟の言ったとおりにしてやらなくてはならないと思いました。私は『しかたがない、抜いてやるぞ。』と申しました。すると弟の目の色がからりと変わって、□、さもうれしそうになりました。（中略）」

少しうつ向きかげんになって庄兵衛の顔を下から見上げて話していた喜助は、こう言ってしまって、視線を膝の上に落とした。

＊笛＝のどぶえ。　＊抜いて＝剃刀を抜いて（教科書P.254～255／森鷗外「高瀬舟」）

(1) ⓐ・ⓑのカタカナを漢字に直しなさい。

(2) ――線①「さも恨めしそうに私を見ています」とあるが、それはなぜか。理由を説明しなさい。

(3) ――線②「車の輪のような物がぐるぐる回っているようで」とあるが、その心情を説明した言葉を次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 孤独　イ 決心　ウ 後悔　エ 混乱

(4) ――線③「恐ろしい催促」とはどんなことか。文章中の言葉を使って説明しなさい。

(5) ――線④「弟の言ったとおりにしてやらなくてはならない」とあるが、「私」にそのような決心をさせたものは何か。文章中から五字で書き抜きなさい。

(6) □に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 弱々しく　イ 憎々しく　ウ 晴れやかに　エ しめやかに

(7) ――線⑤「さもうれしそうになりました」とあるが、それはなぜか。その理由を書きなさい。

(8) ――線⑥「視線を膝の上に落とした」ことからうかがえる喜助の気持ちについて、次の中からあてはまらないものを選び、記号で答えなさい。

ア 弟の死の様子を思い出し、辛い気持ちになっている。
イ 弟を助けられなかった過去の出来事に対して、怒りを覚えている。
ウ 弟を死なせる結果になってしまったことに、自分の責任を感じている。
エ 弟の最期の苦しみを想像し、自分も苦しい気持ちになっている。

1 (1)各5点、(2)(7)20点、他各10点

(1)		(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
ⓐ 漏	ⓑ 敵	(例)「私」が望みどおりに笛を切ってくれないから。	エ	(例)手を貸して早く(剃刀を)抜いてくれということ。	憎々しい目	ウ	(例)死ぬことによって今の苦しみから楽になれると思ったから。	イ

(2) 弟は剃刀を抜くように懇願しているが、「私」がそれをしてくれないので恨めしそうな目つきになったのである。

(4) 弟の催促は、剃刀を早く抜いてほしいということである。

(5) 弟の「カタキの顔をでもにらむような、憎々しい目」を見て、剃刀を抜くことを決心したのである。

(8) 文章からは、アの「辛い」、ウの「責任を感じている」気持ちとエの「苦しい」気持ちが想像できるが、イの「怒り」は読み取れない。

35 学習を広げる 二つの悲しみ

教科書 P.259〜262　光村 国語中3

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

私は少女に答えねばならぬ。答えねばならぬと体の中に走る戦慄(せんりつ)①を精いっぱい③オサえて、どんな声で答えたかわからない。

「あなたのお父さんは、戦死しておられるのです。」

と言って、声が続かなくなった。

瞬間、少女は、いっぱいに開いた目を［　　］ぱっと開き、そして、ワッと、べそをかきそうになった。

②涙が目いっぱいにあふれそうになるのを必死にこらえていた。

それを見ているうちに、私の目に涙があふれて、ほほを伝わり始めた。

私のほうが声を上げて泣きたくなった。しかし、少女は、

「あたし、おじいちゃまから言われて来たの。お父ちゃまが、戦死していたら、係のおじちゃまに、お父ちゃまの戦死した所と、戦死した、じょうきょう、じょうきょうですね、それを、書いてもらっておいで、と言われたの。」

私は黙ってうなずいて、紙を出して書こうとして、うつむいた瞬間、紙の上にぽた、ぽた、涙が落ちて、書けなくなった。

少女が、不思議そうに、私の顔を見つめていたのに困った。

やっと書き終わって、封筒に入れ、少女に渡すと、小さい手でポケットに大切にしまい込んで、腕で押さえて、うなだれた。

涙ⅠⅡ③テキ、落とさず、ひと声も声を上げなかった。

肩に手をやって、何か言おうと思い、顔をのぞき込むと、下唇を血が出るようにかみしめて、かっと目を開いて肩で息をしていた。（中略）

少女は、私の顔を見つめて、

「あたし、おじいちゃまに、言われたの、泣いては、いけないって。おじいちゃまから、おばあちゃまから電車賃をもらって、電車を教えてもらったの。だから、行けるね、と何度も、何度も、言われたの。」

と、改めて、自分に言い聞かせるように、こっくりと、私にうなずいてみせた。

（教科書P.261／杉山龍丸(すぎやまたつまる)「二つの悲しみ」）

(1) ⓐ・ⓑのカタカナを漢字に直しなさい。

(2) ——線①「戦慄」について、次の問いに答えなさい。

Ⅰ「戦慄」とはどんな気持ちで体がふるえることを意味するか。最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 喜び　イ 怒り　ウ 悲しみ　エ 恐ろしさ

Ⅱ よくでる「私」は何に「戦慄」を感じていたのか書きなさい。

(3) ［　　］に入る言葉を次の中から選び、記号で答えなさい。

ア しばらく　イ さらに　ウ まして　エ ゆっくり

(4) よくでる 少女はなぜ、——線②「涙が目いっぱいにあふれそうになるのを必死にこらえていた」のか書きなさい。

(5) ——線③「書き終わって」とあるが、何を書いていたのか。次の文の（　）にあてはまる言葉を書きなさい。

少女の父親の（①）と（②）。

1 (1)各5点、(2)(4)各20点、他各10点（(5)順不同）

(1)	ⓐ	抑
	ⓑ	滴
(2)	Ⅰ	エ
	Ⅱ	(例)少女に父親の戦死を伝えること。
(3)		イ
(4)		(例)祖父から泣いてはいけないと言われたから。
(5)	①	(例)戦死した所（場所）
	②	(例)戦死したじょうきょう（状況）

(2)Ⅱ「私」が「戦慄」を覚えていたのは、次の「私」の発言、「あなたのお父さんは……」を少女に言わなくてはならなかったからだ。

(4) 少女が泣くのをこらえていた理由は、最後の少女の発言の中にある。おじいさんに「泣いては、いけない」と言われたことをおさえる。

36 学習を広げる アラスカとの出会い

教科書 P.263〜268　光村 国語中3

学習した日　月　日

時間25分　100点

1 教科書の「アラスカとの出会い」を読んで、あとの問いに答えなさい。

(1) よくでる「どうしても気になる一枚の写真」（教科書264ページ3行目）について次の問いに答えなさい。

① その写真について説明した次の文の（　）にあてはまる言葉を書き抜きなさい。

（　）を空から撮った写真。

② その写真について詳しく描写した一文を抜き出し、初めの五字を答えなさい。

(2) よくでる「その写真」（教科書264ページ9行目）に筆者はなぜひかれたのか。「～から。」に続く形で、「初めは」「次第に」の言葉を使って五十字以内で説明しなさい。

(3) 「胸が締めつけられるような思い」（教科書264ページ19～20行目）が何だったと筆者は推測しているか。二つの部分を抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

(4) 「この村で過ごした三か月」（教科書266ページ10行目）は筆者にとってどのようなものだったか。次の文の（　）にあてはまる言葉を書き抜きなさい。

・心の中に（①）として残り、その旅を経験することで（②）にひかれていった。

(5) 「心の中に沈潤(ちんでん)していった」（教科書266ページ10～11行目）とはどういうことか、最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 心が沈んでいった。　イ つらい思い出になった。

ウ 心の中に印象深く残った。　エ 心に重くのしかかった。

オ 心の中から消えていった。

(6) 「時間は矢のように過ぎていった」（教科書266ページ19～20行目）とあるが、何年が過ぎたか具体的に書きなさい。

(7) 教科書266～267ページの中で、筆者は「あの本」（教科書267ページ9行目）との出会いによって自分の人生がどうなったと書いているか。三十字以内で抜き出し、初めと終わりの五字を答えなさい。

(8) よくでる「後悔しているかい」（教科書268ページ下段1行目）という問いに対して①筆者がどう答えると思うかを選び、また、②筆者がそう答える理由についてまとめた文の（　）にあてはまる言葉を、Aは文章中から書き抜き、Bは文章中の言葉を使って書きなさい。

① ［筆者の答え］

筆者はこれまでの自分の人生について

（ア 後悔している　イ 後悔していない ）。

② ［その理由］

自分がジョージの写真と出会ったことは、人生の（A）の一つであり、（B）はかぎりなく不思議なものだと考えているから。

1 (2)(3)(7)(8)各10点（(3)順不同・完答、(7)完答）、他各5点

(1)	①	北極圏のあるイヌイットの村
	②	灰色のベー
(2)		(例)初めは写真のもつ光の不思議さに ひきつけられたが、次第に写真の中の村とそこに住む人々が気になり始めたから。
(3)	初め	見知らぬ人
	終わり	る不思議さ
	初め	同じ時代を
	終わり	ない悲しさ
(4)	①	強烈な体験
	②	人の暮らしの多様性
(5)		ウ
(6)		十四年
(7)	初め	まるで新し
	終わり	いていった
(8)	①	イ
	② A	からくり
	② B	(例)人と人との出会い